公益財団法人 日本ハンドボール協会編　平成28年4月1日発行(毎月1回1日発行)　通巻558号

ハンドボール

3·4
MAR. APR. 2016 No.558

特集
第22回 女子世界選手権
第17回 男子アジア選手権
第24回 JOCジュニアオリンピックカップ2015



［表紙写真］第17回男子アジア選手権：日本は3位となり、2017年男子世界選手権の出場権を獲得した。

公益財団法人 日本ハンドボール協会
http://www.handball.or.jp/

2019、2020に向って

～平成28年度日本協会事業計画について～



公益財団法人 日本ハンドボール協会 専務理事　**川上 憲太**

皆様、日頃から日本協会の事業活動にご理解、ご協力、ご尽力賜りまして誠にありがとうございます。日本ハンドボール協会は、ハンドボールの持つ魅力と素晴らしさを沢山の人と共有し、国内外に発展させるべく様々な活動を展開して参ります。

ハンドボール競技は、オリンピック種目として世界の205の国と地域で行われているビッグスポーツの一つであります。世界中で各国が切磋琢磨しているわけですから、この中で世界のトップクラスの成績を維持、追求することは容易なことではないことは言うまでもありません。

2020年には東京オリンピック・パラリンピックが日本で開催され、その前年の2019年12月に女子世界選手権が日本の熊本で開催されます。日本代表チームは両大会とも開催国枠で予選なしで参加できます。そこでの日本代表の大活躍が強く求められる中、具体的には「両大会でのメダル獲得」を目標としております。「大会の大成功」と「日本代表の大活躍」に向かって、今年度をその実質的スタートとして位置付け、総力を結集して取り組んで参りますので、皆様よろしくお願い申し上げます。

以下、平成28年度の事業計画の重点部分を申し上げます。

[強化]

（1）強化計画の具体的実施策を示し、「東京オリンピック強化指定選手」を指名し、年間強化合宿を大幅に増やし、選手を鍛え上げます。

（2）海外での強化活動を増やします。男女代表の強化拠点を設置し、海外派遣選手ともども外国チームと数多くのゲームをこなします。

（3）代表監督を含めて、外国人コーチの登用を行います。世界で勝つための具体的活動のためにも必須となります。

（4）サポートスタッフを充実させます。強化を進める上で、情報の分析は不可欠です。同時にメディカル、フィジカル、メンタルのスタッフの充実を行います。

（5）強化をとりまく環境を整えるため「強化支援グループ」を設置して、国内スケジュール調整をはじめサポートを行います。

（6）NTS、ジュニアアカデミーの充実を図り、2020年以降へとつながる選手の発掘、育成に取り組みます。

[普及]

（1）指導者育成は必須条件です。情報の共有化のためネット配信を充実し、数の拡大、内容の充実を図ります。

（2）ビーチハンドボール、車椅子の将来性を考えた拡大、充実を図ります。

（3）「育成部」を新たに新設し、小･中学生におけるチームの充実及び一貫指導体制の確立を図ります。

[総務]

（1）日本協会の運営の充実を図るため「ガバナンス室」を設置しました。事業計画の推進チェック、各理事の職務内容の充実を図る等活動を行います。

（2）定款をはじめ、諸規定、規約の整備、見直しを行い、協会運営を推進します。

[財務]

平成27年度から実施の登録料における特別強化支援金、マーケティング収入の増加はあるものの、厳しい財政状況が続きます。強化活動のさらなる取組みのため、日本リーグチームからの強化支援金等を有効活用させて頂く等、諸事業の円滑推進のため、マーケティング収入のアップの取組み、各種補助金、助成金の増加を見込む中、各事業の計画的予算執行を行って参ります。

[広報]

（1）ホームページからの発信の充実をさらに推進します。

（2）日本代表を中心とした、2019、2020に向けた日本協会の動きの発信を充実させます。

[事業・企画]

（1）今年度新たに「事業本部」を設置しました。日本代表露出のため、また強化活動充実の目的で日本代表チームによる全国サーキット（合宿、試合、指導会）を行います。

（2）強化活動の充実のため、中学、高校、大学の大会を充実・拡大する企画を行います。

[マーケティング]

特別強化資金確保のため、マーケティング収入の拡大を図ります。さらに、クラウドファンディング、グッズ販売からの収入アップに取組みます。

[日本リーグ]

日本リーグは日本代表強化の中枢であります。代表強化に協力し、リーグ戦の中で激しい戦いを展開します。

[2019女子世界選手権プロジェクト]

「2019女子ハンドボール世界選手権組織委員会」が昨年8月に発足、12月には「女子世界選手権・デンマーク大会視察」を行いました。これを踏まえて、平成28年度に「大会基本計画」を策定し、試合会場の決定、実施計画、予算の作成等、準備を加速していきます。

[2020東京オリンピック・パラリンピックプロジェクト]

東京オリンピック・パラリンピック組織委員会と協働で準備を進めて参ります。

以上、よろしくお願い申し上げます。

第22回 女子 世界 選手権

22nd Women's Handball World Championship

大会期間：2015年12月5日(土)－20日(日)
開催都市：デンマーク・フレゼリクスハウン、ヘアニング、コリング、ネストヴェズ

選手団名簿

役職	名前	所属	
団長	西窪勝広	(公財)日本ハンドボール協会	オムロン
監督	栗山雅倫	(公財)日本ハンドボール協会	東海大学
コーチ	古橋幹夫	(公財)日本ハンドボール協会	小松市立高校
ストレングスコーチ	高野内俊也	(公財)日本ハンドボール協会	財団法人日本予防医学協会
トレーナー	佐野裕美	(公財)日本ハンドボール協会	Lilting Body 治療院
ドクター	丸箸兆延	(公財)日本ハンドボール協会	富山県立中央病院
分析	嘉数陽介	(公財)日本ハンドボール協会	東海大学
サポート	Ulrik Kirkely		

背番号	名前	所属	出身校
1	飛田季実子	ソニーセミコンダクタ	大阪福島女子高校
3	本多　恵	ソニーセミコンダクタ	筑波大学
5	田中美音子	ソニーセミコンダクタ	四天王寺高校
6	石野実加子	北國銀行	筑波大学
9	横嶋かおる	北國銀行	高岡向陵高校
10	藤井紫緒	宣真高等学校（教員）	東京女子体育大学
14	横嶋　彩	北國銀行	環太平洋大学
15	角南　唯	北國銀行	大阪体育大学
17	東濱裕子	オムロン	陽明高校
18	田邊夕貴	Fehérvár KC（HUN）	大阪体育大学
19	池原綾香	三重バイオレットアイリス	日本体育大学
20	石立真悠子	Fehérvár KC（HUN）	筑波大学
22	藤間かおり	オムロン	大分鶴崎高校
24	原　希美	三重バイオレットアイリス	日本体育大学
26	川村杏奈	ソニーセミコンダクタ	東海大学
28	永田しおり	オムロン	福岡女子商業高校
29	松村杏里	広島メイプルレッズ	大阪教育大学
30	亀谷さくら	Vipers Kristiansand（NOR）	NTG High school

2015女子ハンドボール世界選手権報告

団長　**西窪 勝広**

2015年の女子世界選手権はデンマークにて開催された。参加国24か国は予選を4つのグループに分かれて行われた。

グループA：HERNING（収容人員12500人）
DEN、MNE、HUN、JPN、TUN、SRB

グループB：NAESTVED（収容人員3500人）
CUB、SWE、NED、POL、CHN、ANG

グループC：KOLDING（収容人員5100人）
BRA、FRA、ARG、KOR、DOD、GER

グループD：FREDERIKSHAVN（収容人員3000人）
NOR、ESP、ROU、RUS、PUR、KAZ

日本はグループAでHERNING市のJyske Bank BOXEN会場（収容人員12500人）で予選ラウンドを戦った。体育館は約13000名を集客できる大きさで国際大会を開催する条件を整えた規模であり、日本も国際大会が常に開催できる施設の重要性を感じる次第であった。又、Jyske Bank BOXEN会場（メイン会場）のVIPルームはホテル並みの運営であった。グループAの宿泊は各国チームとも同じホテルに滞在、食事関係も各国同様で何ら問題はなく、ミーティング部屋等も予約制で選手係がチームの意向を聞き予約をできた。選手係の服装もスーツ、スカーフ、バッグ等一式支給されており、IHF DEN協会役員も係によりネクタイの色で区別し、スーツは同一なものが支給、会場内のボランティアも同色のトレーナーが支給されていた。

大会運営に関してはIHF DEN協会の細かな配慮で運営され、日本チームも大きな問題も無く活動できた。更に、各チームにバス1台が割り当てられ輸送関係もスムーズな管理がされていた。放映に関しては、DEN戦中心ではあったが、民放を含む6社が放映されており、DENのハンドボールの人気度を垣間見る事が出来た。加えて、ヨーロッパ近隣国も中継ブースを設け、自国に中継を交え放映していた。

グループA会場でオープニングセレモニーがあり、IHFムスタファ会長も来場、TV中継もあり、満席の観客で大会の盛り上がりを感じた。しかしDEN戦は満席で当日の入場券さえ手に入らない状況ではあったが、DEN戦以外の集客に関しては寂しさを感じた。

在デンマーク大使館の末井誠史特命全権大使には開幕戦

最終順位

優勝：ノルウェー
2位：オランダ
3位：ルーマニア
4位：ポーランド
5位：ロシア
6位：デンマーク
7位：フランス
8位：モンテネグロ
9位：スウェーデン
10 位：ブラジル
11 位：ハンガリー
12 位：スペイン
13 位：ドイツ
14 位：韓国
15 位：セルビア
16 位：アンゴラ
17 位：中国
18 位：アルゼンチン
19 位：日本
20 位：プエルトリコ
21 位：チュニジア
22 位：カザフスタン
23 位：キューバ
24 位：コンゴ民主共和国

第 22 回 IHF 女子ハンドボール世界選手権から

3 回目の優勝（1999 年、2011 年、2015 年）を成し遂げたノルウェーは、432 シュート中 279 得点（シュート率：65%）、GK 阻止率は、341 シュート中 132 本を阻止（阻止率：39%）であった。24 カ国平均で見れば、得点率が 56%、阻止率が 31%であり、日本（7 試合）は何れも平均値と同率で、20 本以上のシュートをした選手の中では、横嶋かおる選手の 73%、松村選手の 70%、角南選手の 67%が際立つ。石立選手はアシストで 35 ポイントを上げ、全参加選手中 4 位となる活躍を見せた。

オールスターチーム

ゴールキーパー：Tess Wester	オランダ（阻止率：43%）
右ウイング：Jovanka Radicevic	モンテネグロ（シュート率：71%）
右バック：Nora Mørk	ノルウェー（シュート率：58%）
センターバック：Stine Oftedal	ノルウェー（シュート率：67%）
ラインプレーヤー：Heidi Løke	ノルウェー（シュート率：78%）
左バック：Cristina Neagù	ルーマニア（シュート率：61%）
左ウイング：Valentina Ardean Elisei	ルーマニア（シュート率：83%）

MVP

最高殊勲選手：Cristina Neagu	ルーマニア（63 得点）

ルーキーズ / ベストヤングプレーヤー（最大年齢 22 歳）

ゴールキーパー：Laura Glaser	フランス
右ウィング：Anna Vyakhereva	ロシア
右バック：Monika Kobylinska	ポーランド
センターバック：Eliza Buceschi	ルーマニア
ラインプレーヤー：Ru Qiao	中国
左バック：Anne Mette Hansen	デンマーク
左ウィング：Livia Veranes	キューバ



(DEN 戦）を観戦いただき、又、激励の言葉もチームに頂戴し、団長としてお礼文を発信した。

休息日にはグループ A の IHF 役員、各国責任者が招待（西窪出席）され、HERNING 市長主催の懇親会があり約 50 名ほどが参加した。

テクニカルミーティングは各グループで実施（グループ A KaLin 氏責任者）ただし、今回は前夜に各チーム責任者のミーティング（西窪、栗山監督出席）が行われた。事前に細かい連絡事項が説明され、ユニホームも IHF が決め各チームに配布、そのミーティングで各国の要望がないか質問されたが大きな問題点は出なかった。翌日のテクニカルミーティングではパスポート確認と選手交代規程の説明だけで、すべてが簡素化されスムーズに終了した。

会場管理に関しては、入退場時のチェックは民間警備会社に委託し厳しく管理されていた。会場内は年配から若い方々（ボランティア）が本当に整然として各役割を担当され、ハンドボールを楽しんでいる感じであった。また、メイン会場だけではあったが、会場と隣接した施設にスポンサーブースが開設され、試合時間の合間に観客が家族連れで楽しんでいた。勿論、会場内の売店ではアルコールも販売されていた。

優勝した NOR をはじめ各国とも選手の大型化には間違いないが、それにも増したスピード感ある展開は目を見張るものがあった。しかし、日本選手の体を張った激しいディフェンスは IHF を含め DEN 協会からも高い評価を頂いたことは、ここまでの強化が間違いでは無いことを確信した。特に各国の激しいあたりに関しては、ラフプレーではないディフェンスでの厳しい鍔迫り合いでのぶつかりを整然とレフェリーは裁き、ハンドボールの接触プレイの醍醐味を引き出していた。

日本代表が国際大会で戦う中で、国内大会の中でも激しい当たり等を実践しない限り国際大会には繋がらない事も再認識した。日本協会審判部と日本リーグに参戦しているチームと連携を図り、レフェリングのあり方を考える必要がある事も痛感した。誤解を招いてはいけないが、ラフプレーを促進しているのではなく、国際大会を戦う為に日本リーグの中でも改革し、如何に国際大会に近い戦いを国内で実践し強化していく必要性を感じた事をご理解いただきたい

今大会厳しい結果であったことは間違いない。2019、2020 年に繋げるためにも日本協会の一人として責任を感じる大会でもあった。昼夜を問わず選手の体調管理に注力いただいたドクター、トレーナーの方々には心より感謝をし、又、大会参加にあたり役員、選手派遣にご尽力いただきました関係各位に厚く御礼申し上げ、大会報告とする。

戦　評

■ 12月5日（土）：Aグループ

日本　21　11－17, 10－13　30　デンマーク

日本の初戦の相手は、今回金メダル候補の呼び声が高く、前回大会銅メダルで開催国のデンマーク。日本のグループリーグ初戦は、前回の世界選手権に引き続き、開催国とのオープニングゲームとなった。

大型かつ巧みな選手が揃うデンマークに対し、日本は機動力を活かしたオープンディフェンスを武器に迎え撃つ。開始1分30秒、相手のロングシュートで先制点を許すも、直後の攻撃に原のカットインで同点。その後も、相手の多彩な攻撃を機動力の高い防御で抑制しながら、横嶋（か）のポストシュート、角南のカットインなどで食らいつく一進一退の攻防が続き、前半12分で7対7の同点とした。しかし、日本のわずかなシュートミスやターンオーバーをきっかけに、2連取、3連取を許し、じわりじわりとリードを広げられ、前半を11対17で折り返した。

後半、キャプテン本多や松村のサイドシュートなどで食らいつき、息を吹き返すも、更にリードを奪われ30対21で終了。敗れたものの、日本の機動力を活かした防御が機能し、ミスを誘うシーンも多々見受けられた。また、変則3-2-1や7人攻撃など様々な戦術を仕掛け、日本の可能性を見出すことの出来た、収穫のある初戦となった。

［個人得点］本多恵：5点、藤井紫緒：4点、松村杏里、横嶋かおる、石野実加子：3点、原希美：2点、石立真悠子：1点

■ 12月6日（日）：Aグループ

日本　23　15－17, 8－12　29　モンテネグロ

第二戦の相手は、ロンドンオリンピックで銀メダルを獲得したヨーロッパ屈指の強豪国モンテネグロ。現在も、ヨーロッパクラブ選手権のチャンピオンとなったŽRK Budućnostに所属する選手を8名も有する強豪チームである。

開始直後、7mTを与えてしまい、日本はまたしても先制点を許してしまう。しかし、このゲームにおいて日本は、昨日の初戦に増して攻守共に精度が上がり、勢いがあった。失点後すぐさま松村のサイドシュートで1対1に追いつくと、防御では相手の不利なシュートを誘い、攻撃では大きく揺さぶりながら原、角南らのカットインが機能した。前半10分で6対4と2点をリードし、更に前半15分には、横嶋（か）のスティールなどで9対6とリードを広げた。ところが、世界の強豪チームはここから強さを発揮する。日本に比べ、圧倒的な体格を活かした堅い守備からモンテネグロに猛攻を仕掛けられ、3連取を許し9対9の同点。その後は点の取り合いによりハイスコアな展開となった。前半終了間際、3連取を許し、17対15の2点ビハインドで前半を折り返した。

後半、40分まで1点差で食らいつくが、4連取により4点のリードを奪われる。そのまま試合がモンテネグロのペースになりかけた中、流れを断ち切ったのが若手の角南唯。鋭いカットインとロングシュートで2連取すると、その後も司令塔石立のカットインなどで得点を奪い、後半残り5分で22対25と、どちらに傾くか分からない試合展開へ。しかし、追いつこうと更に激しく仕掛けたDFをモンテネグロに巧みに打ち崩され、23対29で敗戦した。

初戦に続き敗戦となったが、コートに立つ選手だけでなく、観衆でさえ、確実に日本チームの戦術が世界に通用すると感じることの出来る一戦となった。なお、このゲームのMVPに角南唯選手が選出された。グループリーグを突破すべく、次節からの戦いに繋げてほしい。

［個人得点］角南唯：9点、松村杏里：6点、原希美・石立真悠子：3点、藤井紫緒：2点

■ 12月8日（火）：Aグループ

日本　31　13－9, 18－12　21　チュニジア

第三戦の相手は、アフリカ屈指の強豪国のチュニジアとの対戦。世界のトップゾーンに食い込むアンゴラを倒している勢いもあり、今大会でも高い評価を得ている。圧倒的エースのムナ・チェバを中心とした攻撃力にいかに対峙するかが鍵となる一戦となった。

出だし、積極的な防御から松村の速攻などで、7対3とリードスする。チュニジアはタイムアウト後に攻撃リズムをつかみ始め、10対9まで追撃される。落ち着きを取り戻した日本は、修正した防御からの速攻で再び点差を広げ、13対9で前半を終了する。

後半に入り、積極的防御に変化をつけながら、相手の攻撃の芽を摘みつつ、石立の巧みな攻撃のリードから、原のカットインを中心にリードを広げる。終盤、藤井のミドルで突き放し、31対21で終了。今大会の初白星を飾った。これまでのチュニジアでの対戦で、大きく突き放しての勝利は無かったため、チームの自信に繋がることに期待したい。なお、この試合を終えて、原希美選手がゲームMVPに輝いた。

［個人得点］原希美：9点、松村杏里：6点、横嶋かおる・藤井紫緒・角南唯・石立真悠子：3点、本多恵：2点、川村杏奈・田邊夕貴：1点

■ 12月9日（水）：Aグループ

日本　22　12－13, 10－14　27　セルビア

第四戦の相手は、前回の世界選手権で銀メダルを獲得したセルビア。またしても世界のトップゾーンに君臨する強豪チームとの対戦だが、グループリーグ突破の可能性を自力でつかみ取るべく、連勝を掲げて臨んだ。ゲーム序盤、先に主導権を握ったのは日本であった。先制点を許したものの、石立のカットイン、松村のサイドシュート、石野の速攻で立て続けに得点を奪い、3対1とリード。しかし、相手のエースRADOJEVICを起点とする攻撃で4連取を許し、3対5とされる。これに対し、日本は相手のエースを徹底的にマーク。10分で6対6の同点に追いつくと、そこから一進一退の攻防を繰り広げ、前半を12対13の1点ビハインドで折り返す。

後半に入っても日本の足が止まることはなく、圧倒的体格差のある相手に対し、横嶋（か）・原を中心に、何度もミスを誘発し、攻守に渡って粘りのある戦いを繰り広げた。ゲームが傾き始めたのは後半40分過ぎ、日本のシュートミスと一瞬の守備のほころびを見逃さず、確実に得点を重ねたセルビアが4連取したのをきっかけに、残り5分まで4点差が詰まらず20対24。流れを引き寄せるべく、変則3-2-1システムの防御形態などを仕掛けるが、相手の勢いは止まらず、22対27で敗戦となった。

惜敗は悔やまれたが、この試合のMVPには、またしても日本チームから、石立真悠子が選出された。この試合においては、後半中盤まで互角の戦いをしていただけに、勝利を収めることが出来なかったのは残念だが、グループリーグ突破の希望は完全に途絶えたわけではない。さらに、世界のトップレベルに対して通用するという確信を得た戦いでもあったことは間違いない。是非、グループリーグ最終戦に活かしたい。

［個人得点］石立真悠子・角南唯：5点、原希美・横嶋かおる：3点、本多恵・松村杏里：2点、藤井紫緒・石野実加子：1点

■ 12月11日（金）：Aグループ

日本　21　11－17, 10－14　31　ハンガリー

第五戦、グループリーグ最終戦の相手は、去年ヨーロッパ選手権で

戦 評

銅メダルを獲得したハンガリー。今大会では強豪セルビア・デンマークに快勝し、金メダル候補と評される。

開始1分、攻守において日本の主軸である横嶋（か）のカットインシュートで日本が先制。直後に相手の力強いカットインシュートで追いつかれるも、再び横嶋（か）がポストシュートをたたき込み2対1とリード。日本がゲームの入りの主導権を握った。しかし、ここから日本の得点がピタリと止まり、連続ミスから5連続失点を許す。2対6とされたところで流れを止めるべくタイムアウトを要求。タイムアウト後、キャプテン本多の速攻で1点返すも、ハンガリーの勢いは止まらない。ハンガリーは、今夏、日本とともにトレーニングゲームを重ねただけあり、日本の戦い方を知り尽くしているかのように、主軸となる横嶋（か）へのポストパスを排除し、日本の攻撃に幅をもたせていた原、角南のカットインを警戒し、抑制しているのが伺えた。対するハンガリーの攻撃は、日本の4－2ディフェンスやオープンディフェンスを巧みに崩して連続得点。15分には3対12と、大幅にリードを奪われる。圧倒的にハンガリーに流れが傾いたところで、角南に代わり藤井紫緒が投入された。これが功を奏し、速攻で豪快なミドルシュートをたたき込み、悪い流れを断ち切る。勢いを取り戻した日本は、終盤の3連取により何とか食らいつき、11対17で前半を折り返す。

後半に入り、藤井に対してマークを厚くしたハンガリーに対し日本は、司令塔石立の冷静なゲームメイクにより揺さぶりをかけながら、ミドルシュートを得意とする川村を交えて攻撃の大きな展開を試みた。しかし、堅い守備を打ち崩すのは容易ではない。対するハンガリーは、体格的優位性を活かしたパワープレーだけでなく、ポストを絡めた組織的な攻撃などで確実に得点を重ねた。冷静に、かつ確実にゲームを優位に運ぶハンガリーに対し、日本は6-0形態の防御や、退場により一人少ない状況でも6人攻撃を仕掛けるなど、能動的に様々な戦術的変化を用いて仕掛けていく。しかし、点差が埋まることはなく、50分過ぎには18対28と10点のリードを許した。それでも決して諦めないのが日本の誇るべきファイティングスピリット。身体を張って相手の攻撃にヒットし、ルーズボールは決して譲らない。試合の終盤、ゲームをひっくり返すのが困難な状況でも果敢にチャレンジし続ける日本チームを見て、地元の観客が日本の応援団と化した。攻撃時には手拍子を送り、得点すれば大きな声援を送る光景は、ホームチームのようであった。最後まで前を向いてプレーをした日本だが、終盤3連取するもその差が埋まることはなく、21対31で敗戦し、グループリーグ突破は叶わなかった。

敗者となったものの、観客が日本の戦う姿勢に共感し、声援を受けることの出来た貴重なゲームとなった。

［個人得点］藤井紫緒:6点、横嶋かおる:4点、本多恵・石立真悠子・原希美・松村杏里：2点、角南唯・田邉夕貴・川村杏奈：1点

■ 12月13日（月）：17－20位戦

日本　24　11－16, 13－13　29　中国

グループリーグを終えてAグループ5位となり、決勝トーナメント進出を逃した日本は、順位決定戦の戦いへと切り替わった。最初の相手はBグループ5位の中国、アジア同士の対決となった。

試合出だし、厳しい予選の疲れか、日本のシュートミスから速攻を仕掛けられ先制点を許す。その後、何とか守備で相手の攻撃を抑制し、攻撃でチャンスを作り出すものの、シュートミスでなかなか得点を奪うことが出来ない。中国は、これまで日本とアジアで再三対戦してきているだけあり、司令塔石立への厚いマーク、そして石立からポスト横嶋（か）へと送られるパスを徹底的に抑えにきた。点を取られては取り返し、2点、3点の差を縮めることが出来ないまま、前半25分が経過した。さらにその後も、相手の司令塔によるカットイン、身長190センチの体格を活かしたポストプレーなどに苦しみ、この日最大5点のリードを奪われ、11対16で前半を折り返した。

後半、流れを変えたい日本は、序盤から積極的にラインの高い守備を仕掛け、相手の攻撃を錯乱させせようする試みるが、後半4分には12対19と7点のリードを奪われた。次第に焦りが見え始めたところで反撃のきっかけを作ったのは、これまでの試合で何度もゲームの流れを変えてきたエース藤井。鋭いカットインシュート2本をたたき込むと、松村の速攻が決まり3連取。流れが日本に傾いたところで中国がタイムアウトを請求した。タイムアウト後も勢いが止まらない日本は、原のカットイン、藤井の豪快なロングシュートで再び2連取。後半8分には17対19と、一気に2点差まで詰め寄った。後半20分まで両チーム譲らずに得点を取り合い、2点差に縮めては3点差にされ、リードがなかなか縮まらないまま残り10分を迎えた。ここで勝負をかけたい日本だが、守備から得点に結びつけることが出来ず、20対25で惜敗した。最近の対戦では勝ち越していた相手への敗戦は悔やまれたが、日本に何度も追い風をもたらしたエースの藤井がこの試合のMVPに輝いた。

［個人得点］藤井：14点、松村：4点、原：3点、本多・田邉・石立：1点

■ 12月14日（火）：19－20位戦

日本　44　21－7, 23－8　15　プエルトリコ

日本の今大会最後の相手は、カザフスタンにも勝利し、進境著しいプエルトリコとの対戦。世界最終予選に繋げるべく、なんとしても最後は勝利で飾りたい一戦である。

ゲーム序盤、松村のサイドシュートで先制するも、相手のカットインで追いつかれ1対1。さらに原の豪快なミドルシュートで2対1とするも、直後にロングシュートで追いつかれ、嫌なムードが流れる。しかし、そこからの日本は、昨日の敗戦による心配を吹き飛ばすかのように、積極的なゲームを展開した。守備では相手の連続ミスを誘発し、攻撃では石立のゲームメイクで粘り強く相手を左右に揺さぶる。確実にノーマークを作って得点した日本は、前半11分には8対2と、6連続得点により一気にプエルトリコを突き放した。その後、退場者を出すも、5人時にゴールキーパーと代えて田中を攻撃で起用する6人攻撃は、相手の守備を見事に切り崩した。途中出場した田邉のサイドシュートなどで、流れは完全に日本のまま、21対7と大量リードで前半を折り返した。

後半に入っても日本は攻守共に手を休めない。途中からコートに立った池原は、後半開始早々サイドシュートで得点すると、速攻などで立て続けに得点。守備の要として出場した石野も、持ち味である運動量の高い積極的な守備で相手のミスを誘うなど、交代で入った選手も監督の起用に応えるかのように躍動した。試合の終盤には、田中、川村による冷静なゲームコントロールで計44点の大量得点。攻撃成功率は70%と、高確率で相手のゴールネットを揺らした。また、日本の機動性の高い守備で相手のミスは34本を記録し、44対15の圧倒的点差で勝利を飾った。さらに、このゲームのMVPには松村杏里選手が選出された。

［個人得点］松村:9点、池原:7点、田邉:5点、川村:4点、横嶋・角南・石立：3点、本多・石野・藤井・原：2点、田中・永田：1点

【戦績】女子世界選手権

回数	開催年	開催地	参加国	優勝	2位	3位	日本の成績
1	1957.7.13-20	ユーゴスラビア	9	チェコスロバキア	ハンガリー	ユーゴスラビア	不出場
2	1962.7.7-15	ルーマニア	9	ルーマニア	デンマーク	チェコスロバキア	9位
3	1965.11.7-13	西ドイツ	8	ハンガリー	ユーゴスラビア	西ドイツ	7位
4	1971.12.11-19	オランダ	9	東ドイツ	ユーゴスラビア	ハンガリー	9位
5	1973.12.7-15	ユーゴスラビア	12	ユーゴスラビア	ルーマニア	ソ連	10位
6	1975.12.2-13	ソ連	12	東ドイツ	ソ連	ハンガリー	10位
7	1978.11.30-12.10	チェコスロバキア	12	東ドイツ	ソ連	ハンガリー	不出場
8	1982.12.2-12	ハンガリー	12	ソ連	ハンガリー	ユーゴスラビア	不出場
9	1986.12.4-14	オランダ	16	ソ連	チェコスロバキア	ノルウェー	14位
10	1990.11.24-12.4	韓国	16	ソ連	ユーゴスラビア	東ドイツ	不出場
11	1993.11.24-12.5	ノルウェー	16	ドイツ	デンマーク	ノルウェー	不出場
12	1995.12.5-17	オーストリア・ハンガリー	20	韓国	ハンガリー	デンマーク	13位
13	1997.11.30-12.14	ドイツ	24	デンマーク	ノルウェー	ドイツ	17位
14	1999.11.29-12.12	デンマーク・ノルウェー	24	ノルウェー	フランス	オーストリア	17位
15	2001.12.4-16	イタリア	24	ロシア	ノルウェー	ユーゴスラビア	20位
16	2003.12.2-14	クロアチア	24	フランス	ハンガリー	韓国	16位
17	2005.12.5-18	ロシア	24	ロシア	ルーマニア	ハンガリー	18位
18	2007.12.2-16	フランス	24	ロシア	ノルウェー	ドイツ	19位
19	2009.12.5-20	中国	24	ロシア	フランス	ノルウェー	16位
20	2011.12.2-18	ブラジル	24	ノルウェー	フランス	スペイン	14位
21	2013.12.6-22	セルビア	24	ブラジル	セルビア	デンマーク	14位
22	2015.12.5-20	デンマーク	24	ノルウェー	オランダ	ルーマニア	19位
23	2017	ドイツ	24				
24	2019	日本	24				

2015 デンマーク女子世界選手権帯同記録

富山県立中央病院整形外科　丸箸 兆延

2015年12月5日から20日までデンマークで第22回世界女子ハンドボール選手権が開催された。日本選手団は、選手18名、スタッフ7名で構成。予選リーグは、A組の6チーム総当たりで5試合をヘアニングで行い、その後、プレジデントカップをコリングで2試合行い、最終成績19位で12月17日帰国した。

12月6日のモンテネグロ戦でドーピングコントロールがあると試合前に通達があり、係の役員に連れられ説明を受ける。前半終了後のハーフタイムに試合後に行う選手を相手チームから引く。2名選択し、1名予備に選択した。この時点で選手が誰なのかはわからない。試合後半終了10分前にドーピングコントロール委員長のところに行き、先ほど引いた選手を確認した。2名のうち1名は試合中に膝の外傷を受傷し、歩行不能であったため、委員長と交渉し、3枚目にひいていた選手に交代した。選手はエスコート役の係に検査室まで案内されて、書類に記入。採尿検査が二人あり、検査の流れは日本と同じだった。

傷害をおおまかに以下にまとめる。

膝関節靭帯損傷1名、肘関節靭帯損傷2名、膝関節障害4名、足関節靭帯損傷1名、指靭帯損傷1名、風邪2名であった。アジアの大会での報告のような胃腸障害は今回はなかった。

今回、全日本の選手に帯同するという非常に名誉な経験をさせていただくことができ、心から感謝しております。高野内ストレングスコーチ、佐野トレーナーの毎日のケアで、選手がコートに立てるのだとつくづく感じました。医師としてできることは、一部の選手に関節注射や処方をするくらいでした。

試合を見ての感想ですが、平均身長差20㎝くらい低い little player が素早く果敢な攻撃をし、運動量の多いディフェンスで大柄な相手を翻弄する様子をみて、会場から大きな拍手が巻き起こるのは感動的でした。1万2千人の観衆の集まる目の肥えたヨーロッパの観客が喜んでくれるということは、斬新なハンドボールなんだろうなと全く素人の私には感じました。

また、選手とほぼ面識がない中、手探りで一日一日をこなしたように思います。12月4日から12月18日まで全日本の選手が文字通り身を削っている姿を目の当たりにして、日の丸を背負うというのはテレビで見るよりずっと生々しく、大変なんだなと思いました。

西窪団長、栗山監督、古橋コーチ、高野内ストレングスコーチ、佐野トレーナー、嘉数さん、ウリックさん、ガイドのスーザンさん本当にありがとうございました。また、お声掛けいただきました、佐久間先生、北岡先生、勤務先上司の中村先生に深謝いたします。

第22回女子世界選手権［審判報告］

太田智子　島尻真理子

2015年12月5日～20日の日程でデンマーク（フレゼリクスハウン（Frederikshavn）ヘアニング（Herning）コリング（Kolding）ネストヴェズ（Naestved））で開催された女子世界選手権に参加しました。

私たち国際レフェリーにとって、世界選手権、オリンピックというのは特別な場所であって、誰しもがその場に立てるわけではなく、一生の目標とする場所です。国際レフェリーでも世界選手権やオリンピックにノミネートされることのないレフェリーも存在します。前回のセルビアで開催された女子の世界選手権にもノミネートを受けていましたが、いろんな意味で本気の覚悟ができていなかった私たちは、キャンセルする形となりました。一度キャンセルすると次のチャンスはないといわれる厳しいレフェリー界の暗黙のルールの中、今回もノミネートをいただきました。夢のようで、大変喜びました。その一方で、生半可な気持ちと技術では、即刻帰されると覚悟していました。

8月にノミネートの連絡を受けてから、12月1日に出発するまで、4ヶ月という長いようで短い期間を過ごしました。

私たちは、"選手たちは、毎日の練習や厳しいトレーニングを乗り越えている。一方で、同じコートに立つレフェリーはそれと同様のことをせずして、選手から信頼される笛を吹けるはずがない" という信念を持って取り組んでいます。IHFの指導でもあり、藤井審判長の指導でもあり、池渕・檜崎ペアの姿から学んでいることでもあります。この事をさらに心に刻み直し、トレーニングしていました。普段は、朝か夜のトレーニングのみでしたが、この4ヶ月は、ヨーロッパとの時差やIHF主催の大会のスタイルに慣らすため、生活スタイルから変える必要がありました。ヨーロッパとの時差は－8時間。いつも寝ている時間に試合やトレーニング、ミーティングが行われます。現地に行って慣れることもありますので、私が優先したのはトレーニングを行う時間です。国際大会はシャトルランテストが現地時間のAM 8時頃からありますので、日本時間でいうとAM 0時です。この事を考えて一番身体の動かない朝の時間帯と夜の時間帯、両方でトレーニングを行いました。朝はシャトルラン。もちろん体育館などありませんので、近くの広場でメジャーを使って20 Mを測りました。理想は走る2時間前には起きて、ストレッチ等を行いたいものですが、それはかなわず、5時に起きて6時に走り始め、終わって少々トレーニングして、7時半には仕事へ向かう。仕事が終わって、夜の8時ごろから長めのランとトレーニングを行うスタイルでした。

この4ヶ月の間、ぶれることなく過ごせたのは、やはり多くの方々からの温かいご声援でした。感謝しかありません。みなさまからのサポートのおかげで、非常によい状態で現地に入ることができました。女子レフェリーの中で一番の記録でゴールしたいという目標はかないませんでしたが、無事にトレーニングテスト（シャトルラン）をパスすることができました。

一番苦労したのは時差でした。トランスファーなど合わせて約24時間のフライトでデンマークに到着。その後宿舎に着き、その1時間後にはミーティング。ミーティング後すぐ、ルールテスト、ビデオテスト等が行われました。予定ではテストは次の日だったのですが、到着してすぐの時差に慣れていない状態の、日本時間AM3時や4時で、目を開けていることに全エネルギーを使い、頭はふらふら状態でした。

時差と戦う数日間を過ごし、予選リーグが行われる地区へ移動しました。予選リーグの振り分けは、事前にメールで送られてきました。私たちはDグループ。ノルウェー、スペイン、ルーマニア、ロシア、プエルトリコ、カザフスタンのグループでした。結果をみるとノルウェーは優勝、ルーマニアは3位、ロシアは5位。非常に高レベルなグループでした。



全体のレフェリーミーディングでポイントとなったのは、ポストの攻防、罰則、終了間際、ビデオ判定、中断を減らす、レフェリーの視野の取り方などでした。これだけではありませんが、試合全体を通して、指導や動きがみられたのはこのようなことでした。毎試合後、その試合について指導を受け、次の日の朝、全体ミーティングの中でさらに指導をしてもらうという流れでした。私たちが指導されたポイントは、笛やシグナルが多いこと、警告と2分退場の区別、流れに身を任せることの重要さ、雰囲気をすぐさま察知し笛に反映する力、ヨーロッパでの経験を増やすことなどでした。

やはり国技とされるデンマークでは、予選リーグといえど、大歓声の中行われました。その中でコートに立てたことも大きな財産の一つとなりました。私は1試合を終えた後に、すぐさま今吹いているスタイルを変える必要があると気がつきました。IHFからの指導の内容、観客の反応、選手の反応でこれではダメだと感じたからです。私たちの一番の良さは柔軟に対応できることだと思っています。変な言い方をすれば、日本でガッチリ固められた状態ではないので、いい意味でIHFから言われたことに対し、それに対応することができます。いいお手本をすぐさまみつけ、真似をすることが私たちにとって一番の収穫なのです。それを日本で継続して行うことで、段々と自分たちに染みついていくのだと思っています。そして、また別の大会に行き、別のことを教われればまた同じことをする。その永遠の繰り返しだと思っています。決して自分たちのレフェリングを貫き通すのではなく、その大会ごとにIHFが求めるレフェリングをするのが、私たちレフェリーの役目であると思っています。レフェリーとして完成することは決してないと思いました。

私たちレフェリーも考えさせられる出来事といえば、ビデオ判定の場面でした。予選リーグのフランス対韓国でした。前半15分ほどの韓国チームのポストのシュートが上ゴールポストにあたりバウンドしました。レフェリーは指導どおりにゴールを認める前にタイムアウト、オフィシャル席でその映像が確認できますので、通信機器を使い確認し、IHFオフィシャルから返ってきた返信どおりノーゴールを判定し、GKスローから再開しました。しかし、実際には試合後IHFはミスを認め、ゴールしていたことを謝罪しました。フランス対韓国は同点でした。その後その判定を下したIHFオフィシャルやレフェリーはコートでジャッジすることはありませんでした。私たちが考えるべきことは、ミスに対しての批判や得点の管理についての責任の有無がどうのということよりも、"得点が入ったか入らないかをジャッジするのは最終的にはレフェリーの笛であることの責任" を感じるべきであることだと思います。改めて、心に刻み込んだ出来事でした。

世界選手権に参加することによって、新しいことや起こった出来事をお伝えすることができます。それは非常に大事なことだと思っています。しかし、私たちとって一番大切にしたいことは、肌で感じ、雰囲気で感じたことです。言葉では表現することが難しいことが多いですが、私たちのレフェリングを通して、お伝えができればと思っています。

最後になりましたが、世界選手権参加にあたりご支援ご協力をいただきました日本協会を始め、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。これを機にさらなる努力と経験を積み重ねてまいります。今後ともご支援とご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

第17回 男子アジア選手権

17th Asian Men's Handball Championship (Qualification for Men's World Championship, France 2017)

兼 2017年男子世界選手権(フランス)アジア予選

2017年男子世界選手権（フランス）への出場権を獲得！

2017 年男子世界選手権（フランス）アジア予選を兼ねた第 17 回男子アジア選手権は、2016 年 1 月 15 日（金）－1 月 28 日（木）バーレーン・マナーマ（Bahrain, Manama）に、11 ヶ国（マカオが直前に不参加）を集め、先ず、予選リーグを 2 グループにわけ行われた。

予選リーグ（1 回戦総当たり）の後、各グループ上位 2 チームによる決勝トーナメントにより順位を決定する。 カタールを含む上位 4 チームが、2017 男子世界選手権に出場権を得る。

日本は緒戦の韓国戦に勝利し予選リーグを 2 位で通過、決勝トーナメントでは準決勝バーレーンに敗れるも、3 位決定戦でサウジアラビアに快勝し 3 大会ぶりの銅メダルを獲得、来年フランスで開かれる世界男子選手権の出場を決めた。





選手団名簿

役職	名前	所属	
強化本部長	田口　隆	（公財）日本ハンドボール協会	
監督	Antonio Carlos Ortega	（公財）日本ハンドボール協会	
コーチ	吉村　晃	（公財）日本ハンドボール協会	豊田合成
コーチ	北林健治	（公財）日本ハンドボール協会	都城工業高校
コーチ	Nemes Roland	（公財）日本ハンドボール協会	筑波大学
分析	市村志朗	（公財）日本ハンドボール協会	東京理科大学
分析	永野翔太	（公財）日本ハンドボール協会	筑波大学
トレーナー	寺尾邦仁	（公財）日本ハンドボール協会	永井接骨院
ドクター	森實岳史	（公財）日本ハンドボール協会	愛媛県立中央病院
チームマネージャー	田中　茂	（公財）日本ハンドボール協会	

No.	名前	所属	国際試合	得点
1	棚原　良	琉球コラソン	2	3
5	高智海吏	トヨタ車体	64	153
6	加藤嵩士	大同特殊鋼	26	21
8	渡部　仁	トヨタ車体	24	69
9	森　淳	大崎電気	59	54
10	小室大地	大崎電気	16	11
12	木村昌丈	大崎電気	16	0
13	笠原謙哉	トヨタ車体	6	4
17	植垣健人	大崎電気	7	13
19	徳田新之助	筑波大学	0	0
21	甲斐昭人	トヨタ車体	47	0
24	信太弘樹	大崎電気	38	111
25	元木博紀	大崎電気	20	56
26	久保侑生	大同特殊鋼	16	0
29	東江雄斗	早稲田大学	0	0
30	成田幸平	FuchseBerlin（GER）	25	54
31	銘苅　淳	NyiregyhazaKC（HUN）	1	3
32	土居杏利	Chambery（FRA）	0	0

最終順位

優勝	カタール
2位	バーレーン
3位	日本
4位	サウジアラビア
5位	イラン
6位	韓国
7位	UAE
8位	オマーン
9位	中国
10位	レバノン
11位	シリア

アジアから世界へ

JHA 強化本部長　田口　隆



リオデジャネイロオリンピックアジア予選において男子日本代表は第5位という結果で終わりました。リオデジャネイロオリンピックの先には2020年東京オリンピックが控えており、世界で戦いをすることはこの上ない貴重な経験であると共に、大きな財産になる事は言うまでもありません。しかし、リオデジャネイロオリンピックの出場の可能性が消えた今となっては、その貴重な経験を積むためには第17回男子アジア選手権において、何が何でも2017年世界選手権（フランス）の出場権を獲得しなくてはならないということで、オルテガ氏（スペイン国籍）を男子代表監督として招聘しました。

第17回男子アジア選手権は、当初の2月開催が1月開催に変更となり、リオデジャネイロオリンピックアジア予選終了後、日本リーグ・日本選手権と国内でのスケジュールもあった関係で、日本選手権終了後の12月29日に味の素ナショナルトレーニングセンターに男子代表チーム選手・スタッフが集合し、その足で新東京国際空港（成田）へ移動、オルテガ監督が待つハンガリー・ブダペストへと飛び立ちました。12月30日～1月12日の2週間という極めて短い期間ではありましたが、全ての選手・スタッフが精一杯の取り組みをしてチーム作りに励み、バーレーンへと乗り込みました。結果は別掲の通りではありますが、26年振りの韓国からの勝利、第14回大会以来の準決勝進出、同じく第14回大会以来の銅メダル獲得となり、2017年世界選手権の出場権獲得ともなりました。一つのハードルを越えましたが、次は更に高いハードルが待ち受けています。この結果を糧に、この経験を財産として男子代表チームは世界を目指していきます。

では、世界と戦う上で何が必要か？　私が考えるには「規律（規範）」と「厳しさ」だと考えます。ただ、規律（規範）といえばイメージするものは何か？　"与えられるもの" "押し付けられたもの" ではないでしょうか？　これでは積極的に自発的にプレー（行動）出来ないのではないかと思います。"個人の機動力（能力）をチームとして機能させていく必要不可欠なもの" と考えられれば、スタッフからの指示・命令・アドバイスだけでなく、共通理解のもとに選手の状況に応じたプレーの選択も能動的に行われるようになると思います。また、「厳しさ」も同様に、"恐い" "つらい" をイメージしないでしょうか？　"恐い・つらい" と感じている選手が、プレッシャーのかかった場面で冷静な判断が出来るでしょうか？　ダイナミックに身体を使ったプレーが出来るでしょうか？　積極的にプレー出来るでしょうか？　私は難しいと思います。そこで、"目標を達成する為にプレーを極めること" と考えられれば、自発的に取り組めるのではないかと思います。今回のアジア選手権においてはそのような可能性をチーム・選手は示せたように思います。そういった考え方をベースに、体格差を埋めるべく、体力の向上をはじめ技術力・戦術力を高めていかなくてはなりません。それに加えて経験値を高めていくための環境整備も急務となってきます。世界のハードルは決して低いものではありませんが、積極的に課題克服に向けて取り組んでまいります。

最後に、アジア選手権が開催されたバーレーンにて、会場へ足をお運びいただき応援していただいた浅子（あさこ）特命全権大使をはじめ大使館員の皆さん、久能（くの）日本人学校長・日本人学校の先生＆生徒さん・保護者の方々、在バーレーン在住の方々、日本から応援いただいた方々、スタッフ・選手の派遣にご協力いただきました所属先の方々他、多くの方々からの多くのご支援・ご声援に対して御礼申し上げると共に、男子日本代表は2017年世界選手権で果敢に世界にチャレンジすることを全国の皆さんにお約束します。今後とも変わらぬご支援・ご声援を宜しくお願い申し上げます。

アントニオ カルロス オルテガ ペレス
ヘッドコーチ

私の名前は、アントニオ　カルロス　オルテガ　ペレスです。

まず初めに、日本にいらっしゃる多くのハンドボールファン、また日本ハンドボール協会の皆様に感謝を申し上げたいと思います。「ありがとうございました」

私自身、今回のお話をいただいたとき正直、自分にできるのか、引き受けていいのかと悩みました。なぜならば、私は日本のハンドボールスタイル、選手の特徴など知らないことばかりだったからです。しかし引き受けるにあたり様々な情報を必要とリクエストしたところ、今回、日本代表として大切な役割をしてくれた、スタッフ陣からリオデジャネイロオリンピックアジア予選の試合映像、また選手の特徴を見極めるための試合映像を多く送ってもらいました、私はその映像を何度も何度も繰り返し見ることで、ほかのアジアのチームと日本との差はそんなにないこと、またその時点で、チームに何を教え、どのような修正を加えれば良い結果が導き出せるかわかったので、監督を引き受けることにしました。

ハンガリーでの合宿で日本選手に最初に言ったのは「この1か月人生をかけて戦ってくれ」「常に 100％で取り組んでほしい」とミーティングで伝えスタートしました。

練習で最初に取り組んできたことはディフェンス。高さがない日本人選手ではあるが機動力を最大限に活かせば守れることを徹底して指導しました。これには多くの選手が戦術の変化による戸惑いを最初は見せたりしていましたが、練習と映像を見てのミーティングを毎日繰り返すことで、試合で自信をもって使えるところまでよく理解してくれたと思うし、選手達も本当によく練習に取り組んでくれたと思います。

今回のアジア選手権での初戦の韓国戦、また大会を通しての成績は、このディフェンスが機能したことが最大の要因だったと思います。

オフェンスにしても、意図的な攻撃をポジション別にしっかりと説明し何回も繰り返し練習したことで、攻撃戦術も頭で理解し実践で使える段階まで来たことで、不用意なミスを減らし、相手に速攻を与えない攻撃戦術を組み立てたことも良かったのではないかと思います。





私自身、本当にこの1か月は、私の人生で忘れることができない貴重な出来事だったと思います。苦しくもあり苦しんだ分以上にやりがいのある、また結果が伴った充実感もあり楽しかった。日本は、2020 年東京オリンピックに向けて、まだまだ可能性を秘めたチームだと思います。東京の地で選手たちが躍動し良い結果が出せるよう祈ります。

最後に、日本ハンドボール協会の皆様、サポーターの皆様、本当にありがとうございました。

吉村　晃　アシスタントコーチ

この度は男子日本代表の活動に多大なるご理解、ご協力いただき心より感謝申し上げます。

大会までの準備期間が 2 週間、大会が 2 週間の計 1 か月という中で、私が意識して取り組んだことは「組織の力の向上」です。いかにして組織として最大のアウトプット（2017 年世界選手権出場）を出すかという点のみを意識し、コーチ活動に取り組みました。どのように PDCA サイクルを回せば上記の目標に到達できるのかを毎日模索した結果、皆様に喜びをお届けできました。本当に嬉しく思います。

チームに帯同して私は 3 つのことに注力しました。現状把握、あるべき姿の統一、それらの間に生まれる問題の解決です。

まず現状把握ですが、スタッフ、選手の「文化の差」に着目しました。監督が外国人であり、選手では海外でプレーしている選手が 2 名在籍していました。日本人と外国の文化の差がどれほどあるのかを常に観察し、情報を収集しました。次にあるべき姿の統一を図りました。チーム全員（スタッフ含む）が一つの考え方で統一された状態を保てれば、組織として持続的な発展がなされると思ったからです。常に「オルテガの立場」になってものごとを考え発言し、種々の思いや考えをすりあわせました。具体的な活動としては、組織内で起こる理解度の差に対して「どのようにして選手にオルテガの意向を伝えるか」に注力しました。オルテガのハンドボールに対する考え方、哲学を記憶し、彼の意図を「一言でいうと」何であるか、しつこく選手に伝え、練習中常にそれが意識されている状態を維持させました。

1か月を通して日々進化し続けるチームの息遣いを間近で感じられたことは幸せなことだと思います。私はここで得た知見をしっかりと後世に伝えていこうと思います。ご声援本当にありがとうございました。

北林 健治　GKコーチ

今回のアジア選手権に向け GK チームとして取り組んだことを報告します。

1．オルテガのディフェンスシステムに対応したキーピングイメージの共有

①利き腕側を強く守り、45 度の厳しいアウト勝負への対応
②角度を取らせないサイドシュートへの対応
③詰め遅れた時のセンターからのロングシュートに対するディフェンスとの対応

2、ハンガリー合宿でのキーパーミーティングからトレーニングへの流れ

① GK トレーニングや練習中のキーピング、またはトレーニングマッチでのキーピングを映像でチェック
②アジア選手権で対戦するチームに対するビデオ研究の反復
③①と②の繰り返しの中で日々のトレーニング内容を決定し、目的や狙いを明確にさせる
④ GK としてのメンタルスキルを整理し、練習中やゲームの中で意識できているかを確認する
⑤個人面談で個人の武器とするところや、チャレンジポイントをコーチとともに共有し、練習に活かす
⑥ GK 3人でお互いのキーピングを評価しあい、良い面を盗み合いながら自分の課題克服に活用させる

3．大会中のキーパーミーティングからトレーニング・試合への流れ

①対戦相手チームの攻撃パターンを GK も覚え、早くて予測的な準備ができるようにする
②映像やビデオ研究の中で、対戦選手一人一人の選手のシュート習慣を確認し、トレーニングに活かす
③前の試合の内容を確認し、成果と課題を明確にさせ、丁寧な次への準備を行う
④ゲーム前の GK の動きづくりやシューターを使っての GK 練習の内容を検討し確認する

このような日々の活動を行う中で、1本でも多くのキーピングにつなげることができるように工夫しました。そして GK チームでの研究の中から以下のようなキーピングの基本的なポイントが出てきました。

4．GK コーチとして心がけた基本的なポイント

①相手チームの攻撃戦術を理解した予測的なフットワーク
②シューターよりも先に準備
③先に軸を作りながらの駆け引き
④大きく構え面を大きく見せる
⑤大きな構えから下に打たせ勝負
⑥ハイコーナーへのロングシュートにはこだわらず、しっかりと面を向けた中で全身での左右への飛び込み
⑦足元から下のシュートへの面を作る

などです。

今回のアジア選手権では3人のゴールキーパーのチームワークが、ある程度安定したキーピングを生んだのではないかと思います。しかし、アジアや世界のトップ GK からすれば、まだまだ見劣りするところがある事は事実であります。さらに個人スキルを上げ、緻密な駆け引きの中でも大きくダイナミックなキーピングができるゴールキーパーの育成に取り組んでいかなくてはならないと思います。

永野 翔太　分析スタッフ

プロコーチであるオルテガ監督は、様々な観点での「情報」の取り扱いに非常にシビアで、「基本的にオルテガ監督の了承を得て情報を選手に流す」というスタッフとしての基本的なルールを設けていました。その中で私たちアナリストは整理された情報を選手・スタッフに伝えるため、①日本代表選手選考のためのプレー集の作成、②対戦国の情報収集、③全てのミーティング・トレーニングの撮影、④日本の戦術をまとめた資料の作成、⑤ミーティング資料の作成、⑥ゲーム時にハーフタイムでのデータの還元、⑦モチベーションビデオ作成の主に7つの活動を行いました。ここでは、⑤ミーティング資料の作成に関して報告させていただきます。

アジア選手権に向けた準備期間はハンガリーで行った事前合宿の 12 日間しかなく、そのトレーニングの合計時間は 28 時間でした。この限られた時間でオルテガ監督は、攻守ともに多くの戦術を用意して大会に臨みました。しかし、チームを完成させるためにはコートで行うトレーニングだけでは足りず、トレーニングを行う前には必ず 30 ～ 60 分間のミーティングを設定していました。ミーティング内容は直前のトレーニングの反省と、これから行うトレーニングの意図の説明です。オルテガ監督は基本的にミーティングの場ではプレーの戦術的な意図の修正に関してのみ言及するため、私たちはそのニーズに合った約5分間の映像資料を用意しました。ミーティング→トレーニング→ミーティングというサイ





クルの中で 12 日間のトレーニングを行い、戦術をチームに落とし込みました。

大会中のミーティングでは対戦国のオフェンスとディフェンスそれぞれの分析映像を用意しました。オルテガ監督は選手に分かりやすく情報を伝えるために映像を流す順番を決めていました。その順番は「個人的なプレー、6 対 6 で戦術的な意図のないプレー、6 対 6 の戦術，速攻（戻りのディフェンス）、5 対 5 の時の戦術，数的不利時の戦術、数的有利時の戦術」です。それぞれの項目の中で、戦術の使用頻度が高い順にプレーを並び替え、1 つの映像にまとめてミーティング時に情報を伝達しました。

チーム始動の当初は、戦術的な情報量の多さに選手たちも困惑することが多かったのですが、次第に情報が整理され、その結果 26 年ぶりに韓国を倒し、3 大会ぶりに世界選手権の切符を獲得できたことを大変嬉しく思っております。

最後になりましたが、今大会にあたりご尽力いただいた協会関係の方々、応援いただいた皆様には心より感謝申し上げます。今大会の経験と反省を生かし、来年の世界選手権に向け、さらなる努力を心掛けていきたいと考えております。本当にありがとうございました。

試合結果・戦評

■ 1 月 16 日（土）：A グループ

日本　31（14 － 10、17 － 15）25　韓国

オルテガ監督の公式戦初采配となる第 17 回アジア選手権初戦、宿敵・韓国との試合。前半日本は、左サイド・土井、左バック・信太、センター・植垣、右バック・徳田、右サイド・渡部、ポスト・加藤、GK 甲斐の布陣でスタート。立上がりから日本は、新たな戦術である DF の動きで、相手韓国に有利な条件で攻撃をさせず、ミスを誘発したり、悪い条件でシュートを打たせて確実に守りからリズムをつかむ。前半の日本の攻撃は、セット OF でじっくりとボールをキープし、動きとパスを止めることなく連続攻撃をしかけ、確実にノーマークを作り得点を重ねていく。苦しい場面でも、サイドの渡部が回り込んでミドルシュートを決めたり、サイドの深いところからシュートを決めたりと大活躍。また確実に得た 7mT をベテランの銘苅が確実に決め、徐々に日本ペースで試合が進む。前半の終盤は、植垣に代わって入った新ゲームメーカーの東江が連続得点をあげ、日本が 4 点差で前半を折り返す。

後半立ち上がり、キャプテン信太の強烈なミドルシュートで 5 点差とし、DF では前半以上に動きのある積極的な DF を展開し､韓国にいい位置で攻撃をさせない。その間に渡部、銘苅、高智、加藤の連続得点で一気に 19 対 11 の 8 点差とする有利な展開に。その後は韓国に得点は許すが、連続得点は許すことなく、粘り強い攻撃からノーマークを作り、確実に得点を重ねた。そして後半 18 分にはこの試合最大の 10 点差をつける。しかし 19 分過ぎから、日本のシュートミスから韓国に連続速攻、ミドル シュートを決められ、この試合初めて 5 連続得点を許し、26 対 21 と追い上げられるものの、日本はタイムアウトを取り、メンバーを交代させて試合終盤に臨んだ。タイムアウト後、高智、渡部の連続得点で韓国に移りそうな ペースを自分たちの手で引き寄せた。26 分過ぎには、この試合の勝利を決定的にする土井のシュートが決まり、31 対 25 の 6 点差で、26 年ぶりに韓国に勝利した。日本の勝利は DF での粘り強い守り､その中心である成田、小室の献身的な守りが光った。

【個人得点】渡部：8 点、銘苅：5 点、高智・植垣・徳田・東江・土井：3 点、加藤：2 点、信太：1 点

■ 1 月 20 日（水）：A グループ

日本　24（12 － 15、12 - 14）29　カタール

2 戦目は、昨年度世界選手権 2 位、アジアチャンピオンのカタールとの試合。日本は、左サイド・土井、左バック・銘苅、センター・東江、右バック・高智、右サイド・元木、ポスト・加藤、GK 甲斐の布陣でスタート。立上がり固さが見える日本ではあったが、3 分過ぎにベテラン銘苅のゴールを皮切りに DF、OF 共にカタール対策で作戦を立ててきたことが機能し、カタールが攻めきれない場面を作り、土井の速攻、クイックスタートで連続得点を奪い、15 分過ぎまで 6 対 6 の同点。その後、日本はシュートミスからカタールに速攻での得点を許すものの､粘り強く攻め､銘苅のミドルシュート、7mT と得点を重ね、23 分までは一進一退の攻防を続け 11 対 11 と食らいつく。前半終盤にはカタールに退場者が出て、

流れが日本に来るかと思われたが、カタールも GK を中心に必死に守り、日本に得点を許さない。12 対 15 の 3 点差で前半を折り返す。

後半立上がり、日本は数的有利な状態でのスタートであったが、得点することができず、この間にカタールはエースのカポーテがフリースローから力強いロングシュートを決めるなど得点を重ね、徐々にカタールが試合の主導権を握る。日本は、メンバーを入れ替えて残り 15 分に挑み、16 分過ぎには徳田がミドルシュート、カットインと連続得点をあげて勢いを取り戻す。その後も笠原のサイドシュート、成田の速攻で連続得点をあげ、20 分過ぎには 21 対 23 と 2 点差まで追い上げる。しかし､流れが日本に傾いたかと思うと､カタールはすぐさまタイムアウトをとり指示を与える。後半の残り 10 分の攻防では日本は総力戦で戦い、銘苅、徳田のミドルシュートで得点を重ねる。DF でも粘りに粘って守るものの、パッシブプレー寸前でのフリースローからのロングシュートを許す形でカタールに得点を許す。日本は、積極的に連続攻撃をかけることで、カタールの退場を誘い、数的有利な場面を作るが、得点に結び付かず、最終的には 24 対 29 の 5 点差で試合終了となる。善戦し、得るものが多かったが、課題も残る試合であった。

【個人得点】高智・銘苅・土井：5 点、徳田：3 点、成田：2 点、加藤・渡部・笠原・植垣：1 点

■ 1 月 22 日（金）：A グループ

日本　29（16 − 11、13 − 13）24　オマーン

アジア選手権 3 戦目はオマーンとの試合。日本は、左サイド・土井、左バック・信太、センター・植垣、右バック・高智、右サイド・渡部、ポスト・加藤、GK 甲斐の布陣でスタート。オマーンに先制点を許すが、銘苅の 7mT で同点に追いつく。しかし、セットオフェンスでは DF を攻めきることができず、その間にオマーンに連続得点を許し、オマーンペースで進むかと思われた。しかし､5 分過ぎ高智がミドル､カットインと連続得点を決めて流れをオマーンに渡さず、お互いに一進一退の攻防で試合が進む。日本は得点が思うように取れない時間帯でも粘り強く守り、オマーンに得点を許さない。GK 甲斐を中心に DF で粘りを見せたことで攻撃にもリズムが生まれ、15 分過ぎから信太、高智、東江、小室の 4 連続得点で 12 対 7 と一気にオマーンを突き放す。25 分あたりからオマーンのエース№ 66 に 3 連取されるが、日本も高智に代わった徳田がスピードを活かしたプレーで得点を挙げ、ベテラン銘苅、植垣と前半終盤も連続得点を奪い返し、16 対 11 の 5 点差で折り返す。

後半立上がり、キャプテン信太が豪快なミドルシュートを決めるなど、先行して得点を奪っていき、後半 15 分にはこの試合最大得点差の 8 点差とする。ここでオマーンはタイムアウトを請求しチームを立て直し、残りの 15 分にかける。タイムアウト後、日本は、ミスから速攻、また№ 66 の二次速攻からのミドルシュートを許し、オマーンに勢いを与えてしまう。日本はシュートまではいくものの、連続してゴールポストにはね返されたり、キーパーに止められたりとなかなか得点を奪えず、最大 8 点差あった得点差が 25 対 21 の 4 点差まで縮まる。日本はタイムアウトを請求、戦術とゲーム運びを確認し、残り 7 分の攻防を迎える。早速、オマーンのミスを成田が速攻を決め、また守っては GK 甲斐のセーブからセットオフェンスで渡部、高智が 3 連続得点を挙げ、再び 7 点差とオマーンを突き放す。その後オマーンも最後の力を振り絞り得点を奪うが、最終的には 29 対 24 の 5 点差でオマーンに勝利した。この結果、日本は、対戦成績を 2 勝 1 敗とし、A グループ 2 位をキープする。

【個人得点】高智：5 点、渡部・信太・銘苅：4 点、徳田：3 点、植垣・東江・土井：2 点、加藤・小室・成点：1 点

■ 1 月 24 日（日）：A グループ

日本　24（11 − 6、13 − 9）15　シリア

アジア選手権第 4 戦目、予選 A グループ最終戦はシリアとの試合。日本は、左サイド・植垣、左バック・信太、センター・東江、右バック・徳田、右サイド・元木、ポスト・加藤、GK 木村の布陣でスタート。立上がり日本は、ノーマークを作るがシリア GK に阻止され攻撃のリズムがつかめない。しかし、守りでは、GK 木村を中心にしっかり守り、シリアにも得点を許さない。ようやく 4 分過ぎから銘苅の 7 m T、元木のリバンドを奪ってのシュート、小室、東江と 4 連続得点で日本が先に流れをつかむ。その後日本は連続ミスから得点を挙げることができず、時間が過ぎていく。シリアも 17 分過ぎからミドルシュートを中心に攻めを展開し、得点を奪い、前半を 11 対 6 の 5 点差で折り返す。

後半も日本は、シュートミス、テクニカルミスで、なかなか攻撃でリズムがつかめず、得点を伸ばすことができない。シリアも日本の DF を攻めあぐね、お互いに得点を奪うことができず試合が進むが､後半 6 分過ぎから､徳田､植垣､加藤､信太と連続得点を奪った日本は 10 分には 17 対 8 と一気の攻撃で 9 点差とする。シリアもタイムアウトを申請し流れを変えようとするが、日本の守りを攻略できず、20 分には 24 対 12 とこの試合最大の 12 点差とする。試合終盤には日本は、再びシュートミス、テクニカルミスを繰り返し、シリアに速攻などを含め 3 連続得点を許し、得点を奪えないまま試合終了となる。最終得点は 24 対 15 の 9 点差で日本は勝利し、予選 A グループ 2 位となり準決勝進出を決めるとともに、3 大会ぶりに世界選手権出場権を獲得した。

【個人得点】信太：5 点、銘苅：4 点、徳田・東江：3 点、加藤・小室・植垣：2 点、高智・渡部・元木：1 点

予選リーグ星取り表

グループ A		QAT	JPN	KOR	OMA	SYR	数	勝ー分ー敗	得点	失点	差	点
1 位	カタール（QAT）		29 ○ 24	38 ○ 23	37 ○ 19	32 ○ 10	4	4 − 0 − 0	136	76	60	8
2 位	日本（JPN）	24 ● 29		31 ○ 25	29 ○ 24	24 ○ 15	4	3 − 0 − 1	108	93	15	6
3 位	韓国（KOR）	23 ● 38	25 ● 31		23 ○ 22	38 ○ 20	4	2 − 0 − 2	109	111	− 2	4
4 位	オマーン（OMA）	19 ● 37	24 ● 29	22 ● 23		31 ○ 24	4	1 − 0 − 3	96	113	− 17	2
5位	シリア（SYR）	10 ● 32	15 ● 24	20 ● 38	24 ● 31		4	0 − 0 − 4	69	125	− 56	0

グループ B		BRN	KSA	IRI	UAE	LIB	CHN	数	勝ー分ー敗	得点	失点	差	点
1 位	バーレーン（BRN）		25 ○ 24	27 ○ 16	28 ○ 26	41 ○ 18	41 ○ 18	5	5 − 0 − 0	162	102	60	10
2 位	サウジアラビア（KSA）	24 ● 25		26 ○ 21	17 △ 17	32 ○ 13	34 ○ 20	5	3 − 1 − 1	133	96	37	7
3 位	イラン（IRI）	16 ● 27	21 ● 26		34 ○ 32	31 ○ 26	36 ○ 18	5	3 − 0 − 2	138	129	9	6
4 位	UAE（UAE）	26 ● 28	17 △ 17	32 ● 34		27 ○ 23	21 ○ 17	5	2 − 1 − 2	123	119	4	5
5 位	レバノン（LIB）	18 ● 41	13 ● 32	26 ● 31	23 ● 27		30 ○ 28	5	1 − 0 − 4	110	159	-49	2
6 位	中国（CHN）	18 ● 41	20 ● 34	18 ● 36	17 ● 21	28 ● 30		5	0 − 0 − 5	101	162	-61	0

■ 1 月 26 日（火）：準決勝

日本　23（10 − 15、13 − 14）29　バーレーン

準決勝は B グループ 1 位の地元バーレーンとの試合。日本は、左サイド・土井、左バック・信太、センター・東江、右バック・高智、右サイド・渡部、ポスト・加藤、GK 甲斐の布陣でスタート。立上がり警戒していたバーレーン№ 99 にミドルシュートを決められ先制点を許す。日本は、攻撃でボールを大きく展開しバーレーン DF を揺さぶる形で攻撃を展開し、加藤のポストシュート、高智のポジションチェンジしてからのサイドシュート、渡部の 7mT、速攻からのシュートと得点を重ねるが、バーレーンも攻撃で中心の№ 99 からの展開でミドルシュートで得点をあげる。前半の 15 分過ぎには、日本が得たノーマークシュートを決めきれず、逆にバーレーンに速攻を許す展開となり、試合の流れが徐々にバーレーンに傾く。日本は早い段階でタイムアウトを請求し立て直しをはかるが、攻撃での焦りからか、シュートミス、テクニカルミスを連発し、そのボールをバーレーンが連続速攻で得点してしまい、完全にバーレーンペースとなる。日本は早くも 2 回目のタイムアウトを請求し、再度チームに攻撃での指示を徹底するが、攻撃がうまく展開できず、得点が奪えないまま試合が進み、前半を 10 対 15 の 5 点ビハンインドで折り返す。

後半開始早々、銘苅のカットインで得点を奪い、そのままリズムに乗りたい日本だったが、折角作ったノーマークのチャンスをバーレーン GK に阻止されたり、ゴールポストに嫌われるなど、得点を奪えない。それでも日本は DF で粘りを見せ、5 点差以上の得点差に広げられることなく、後半 20 分に日本は 3 回目のタイムアウトを請求し最後の 10 分に集中する。その後、土井の速攻で得点を奪うが、バーレーンも日本のパスミスを速攻に繋ぎ、セットオフェンスで確実にノーマークシュートを決めて追加点を奪い、後半残り 3 分には 21 対 28 の 7 点差となる。最後まで粘りを見せたが、23 対 29 で試合終了、決勝進出は叶わなかった。

【個人得点】渡部・土井：4 点、高智・植垣・徳田：3 点、加藤・成田・銘苅：2 点

■ 1 月 26 日（火）：準決勝

カタール　22（12 − 9、10 − 4）13　サウジアラビア

■ 1 月 28 日（金）：3 位決定戦

日本　25（12 − 7、13 − 9）16　サウジアラビア

最終戦はメダルを賭けたサウジアラビアとの 3 位決定戦。日本は、左サイド・土井、左バック・銘苅、センター・植垣、右バック・高智、右サイド・渡部、ポスト・小室、GK 木村の布陣でスタート。立上がり日本は、警戒していたサウジアラビア№ 57 にミドルシュートを許し先制点を奪われるが、その得点された後にクイックスタートで成田が決め、すぐに追いつく。その後は、サウジアラビアに先行される展開が続くが、取られたら取り返すという一進一退の展開で試合が進む。日本は、23 分過ぎに徳田が獲得した 7mT を銘苅が決め、また粘り強いディフェンスで相手ミスを成田が速攻で決めるなど、連続得点を奪い、前半を 12 対 7 の 5 点差で折り返す。

後半に入り、日本はディフェンスで足を使ったしっかりとした守りから速攻につなげて得点を奪うとともに、セットオフェンスでも渡部のサイドシュートなど、一気に 5 連続得点を奪い、さらにリードを広げる。その後も GK 木村を中心に粘り強いディフェンスでサウジアラビアに連続得点を許すことなく試合は進む。後半 24 分過ぎには代わって入った笠原のサイドシュート、徳田のカットインなどを含め得点を奪い、25 対 16 の 9 点差で勝利、3 大会ぶりのメダルを獲得した。今大会は、初戦の韓国戦、最終戦の勝利は成長したディフェンスが非常に機能した結果であると言える。

【個人得点】植垣・銘苅・土井：4 点、成田：3 点、小室・徳田・東江：2 点、高智・加藤・渡部・笠原：1 点

■ 1 月 28 日（金）：決勝

カタール　27（12 − 11、15 − 11）22　バーレーン

帯同報告

愛媛県立中央病院高度救命救急センター・災害医療センター　森實 岳史

1．派遣に至る経緯

10 年以上前、全国大会の審判員だった私に JHA 役員から「帯同医師として、将来参加は可能か」との打診があったが、2 週間以上の休職は容易ではなく、これまで応えることができなかった。数年前に佐久間医事委員長からのご推挙でスポーツドクターの資格を得ることができたが、実際の派遣は経験が無かった。

本大会は日程が変更になり、急遽私が参加することになった。選手はハンガリーから現地 BRN に入るため、単身で現地まで行くこと、30 ㎏の荷物を日本から運ぶことも重要な役割となった。1 月 14 日深夜の羽田発ドーハ経由にて同日昼前（時差－ 6 時間）に現地入りした。

2．事前準備

選手個々の身体状況、準備医薬品などは過去に帯同された有田先生（小波瀬病院）、井本先生（熊本赤十字病院）、佐久間先生（同、前述）など多くの方のご協力で、現地での細かいことは女子 WC 帯同の丸箸先生（富山県立中央病院；大学の同級生）から直接聞くことができた。深謝したい。

私としては、整形外科医としての働きは不十分かもしれないが、健康管理（食事を含めたもの）、全身（内科、その他の科）疾患、Doping、風土病への対応と、「現地でできる雑用をすること」を目標に、「一生に一度のこと」の思いで現地に臨んだ。

3．実際の活動

幸い、大会期間中に体調不良や大きなケガを負う選手はなかった。下痢は数名いたがほとんどは 2 日以内で軽快した。食事は毎食ホテルのビュッフェで生野菜や果物が多く出たが、選手は自分で制限をしていた。風邪気味の選手には内服薬で対応した。練習中に筋損傷、試合中に膝の靭帯損傷が各々 1 名で起こったがいずれも大会中に復帰できた。準決勝以降では相手選手との接触による顔面、胸部、腹部、大腿部などの打撲が多発したが、いずれも試合中に復帰した。試合全般を通し、日本選手は倒れても自力でベンチまで戻ってくることが多く、好感が持てた。



写真 1　韓国戦勝利の直後。BRN の試合以外の観客は少なく日本の応援も目立った。

4．ドーピング検査について

検査中の付き添いは重要な任務である。準決勝の BRN 戦で 1 名が選ばれた。手順は JADA のビデオの通りで、地元の係員は公平かつ友好的であった。しかし、試合直後にユニホームのまま地元の超多数の群衆の中を警備も付かず移動することになり、課題を残した。排尿と検査終了まで 2 時間前後かかり、他の選手は先にホテルに戻った。試合中の水分バランスを考慮すると、被検者は試合後に水分を 2 ℓ 程度飲用する必要があると思えた〔注：大量の飲水で尿比重の基準値を満たさない場合は、基準値を満たすまで再検査が繰り返される〕。

5．その他、中東に関すること

テロなどの政情不安はなく、直前に BRN や KSA が断交した IRI も大会に参加した。SYR は国家そのものが不安定であるため、試合前には監督からは相手選手を Respect するよう指示が出た。

いわゆる中東の笛は無かったように思えた。一方、試合会場までの移動では、バス乗車後に白バイ先導の準備ができているにもかかわらず 30 分程度待たされるということが頻発するなど、ホテル・練習会場など大会を通して中東特有の文化を理解する必要を多く感じた。

試合の内容や結果などについては別稿に譲るが、初戦の KOR 戦にモチベーションのピークがあり、最終戦で再度集中できていた。現地の日本大使館員やその家族、日本人学校の児童・生徒や保護者・教員など、現地邦人の方からは、食をはじめとする多大な支援、温かい応援を頂いた。これらの支援があったことを、ハンドボールに関わる全ての人が知っておくべきと思う。準決勝や三位決定戦では、平日にも関わらず、地元で埋まる体育館の一角に、現地在留邦人の 30％近くが来場して陣取り、完全アウェイの中、見事銅メダルを獲得できた。

選手の皆様、スタッフの皆様、三位入賞本当におめでとうございました。

最後に、今回の派遣に際し多大なご支援を頂いた皆様、日本協会の関係者にお礼を申し上げたい。また、選手のケアに多大な貢献をした寺尾 AT に深謝申し上げたい。



写真 2　Bronze Medal

【戦績】男子アジア選手権

回	開催年	会場	備考	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	11位	12位
1	1977	クウェート		日本	韓国	中国	クウェート	イラク	バーレーン	パレスチナ	サウジアラビア	UAE			
2	1979	中国・南京		日本	中国	クウェート	パレスチナ	インド							
3	1983	韓国・ソウル		韓国	日本	クウェート	バーレーン	サウジアラビア	カタール	ヨルダン	ホンコン				
4	1987	ヨルダン		韓国	日本	クウェート	中国	バーレーン	カタール	タイペイ	シリア	?	パレスチナ	ネパール	
5	1989	中国・北京		韓国	日本	クウェート	中国	サウジアラビア	カタール	タイペイ	イラン	ホンコン			
6	1991	日本・広島		韓国	日本	中国	カタール	バーレーン	UAE	タイペイ	クウェート	北朝鮮	サウジアラビア	イラン	シリア
7	1993	バーレーン		韓国	クウェート	日本	サウジアラビア	中国	バーレーン	カタール	UAE	イラン	タイペイ	北朝鮮	シリア
8	1995	クウェート	五輪予選	クウェート	韓国	バーレーン	日本	中国	UAE	タイペイ	カザフスタン	インド			
9	2000	日本・熊本	五輪予選	韓国	中国	日本	タイペイ	イラン							
10	2002	イラン	WC予選	クウェート	カタール	サウジアラビア	韓国	イラン	日本	バーレーン					
11	2004	カタール・ドーハ	WC予選	クウェート	日本	カタール	バーレーン	サウジアラビア	UAE	イラン	ヨルダン	オマーン			
12	2006	タイ・バンコク	WC予選	クウェート	韓国	カタール	イラン	日本	バーレーン	ヨルダン	中国	タイ			
13	2008	イラン・イスファファン	WC予選	韓国	クウェート	サウジアラビア	イラン	カタール	日本	中国	UAE	レバノン	バーレーン		
14	2010	レバノン・ベイルート	WC予選	韓国	バーレーン	日本	サウジアラビア	カタール	シリア	イラン	レバノン	中国	イラク	UAE	ヨルダン
15	2012	サウジアラビア・ジェッダ	WC予選	韓国	カタール	サウジアラビア	日本	イラン	バーレーン	UAE	クウェート	ヨルダン	ウズベキスタン		
16	2014	バーレーン・マナーマ	WC予選	カタール	バーレーン	イラン	UAE	韓国	サウジアラビア	クウェート	オマーン	日本	イラク	中国	ウズベキスタン
17	2016	バーレーン・マナーマ	WC予選	カタール	バーレーン	日本	サウジアラビア	イラン	韓国	UAE	オマーン	中国	レバノン	シリア	
18	2018														

【戦績】男子日本代表 VS 韓国代表　過去の対戦結果

年	大会	勝敗	スコア
1971	ミュンヘンオリンピック予選	○	20 − 9
1971	ミュンヘンオリンピック予選	○	21 − 7
1976	モントリオールオリンピック予選	○	25 − 15
1976	モントリオールオリンピック予選	○	20 − 15
1977	アジア選手権	○	24 − 14
1979	モスクワオリンピック予選	○	25 − 16
1979	モスクワオリンピック予選	○	26 − 24
1981	世界選手権予選	○	29 − 24
1982	アジア大会	○	21 − 20
1983	アジア選手権	●	19 − 25
1983	ロサンゼルスオリンピック予選	●	20 − 24
1983	ロサンゼルスオリンピック予選	○	25 − 19
1985	世界選手権予選	●	26 − 33
1986	アジア大会	●	26 − 38
1987	韓国遠征	●	21 − 32
1987	韓国遠征	○	28 − 21
1987	韓国4ヶ国対抗	●	23 − 35
1987	アジア選手権	●	24 − 28
1988	ソウルオリンピック	●	24 − 33
1989	アジア選手権	●	19 − 24
1990	グッドウィルゲームズ	○	26 − 19
1990	アジア大会	●	25 − 26
1991	アジア選手権	●	23 − 27
1993	アジア選手権	●	19 − 22
1994	世界選手権予選	●	17 − 25
1994	アジア大会	●	21 − 26
1998	世界選手権予選	●	15 − 25
1998	アジア大会	●	27 − 35
2000	アジア選手権兼オリンピック予選	●	20 − 22
2000	世界選手権予選	●	17 − 27
2001	アジアナショナルサーキット	●	19 − 30
2001	東アジア競技会	●	14 − 24
2002	アジア選手権兼世界選手権予選	●	20 − 23
2002	アジアナショナルサーキット	●	14 − 25
2002	アジア大会	●	17 − 24
2003	アテネオリンピック予選	△	22 − 22
2006	アジア大会	△	26 − 26
2007	北京オリンピック予選	●	25 − 30
2008	北京オリンピック再予選	●	25 − 28
2008	アジア選手権兼世界選手権予選	●	25 − 33
2008	日韓交流戦	●	29 − 30
2008	日韓交流戦	●	23 − 25
2009	日韓定期戦	●	27 − 36
2010	ジャパンカップ2010	●	22 − 32
2010	アジア選手権兼世界選手権予選	●	23 − 30
2011	日韓定期戦	●	24 − 30
2011	ロンドンオリンピックアジア予選	●	18 − 31
2011	ロンドンオリンピックアジア予選	●	21 − 26
2012	アジア選手権兼世界選手権予選	●	27 − 28
2012	ジャパンカップ2012	●	23 − 30
2013	日韓定期戦	●	24 − 29
2014	日韓定期戦	●	22 − 24
2014	アジア大会	●	24 − 31
2016	アジア選手権	○	31 − 25

54戦13勝2分39敗

第24回 JOCジュニアオリンピックカップ2015 ハンドボール大会

開催期日：平成27年12月23日(水)〜27日(日)
会　場：浦添市民体育館、沖縄県立武道館



最終順位

【男子】		【女子】	
優　勝	愛知県選抜	優　勝	東京都選抜
準優勝	石川県選抜	準優勝	山口県選抜
3　位	埼玉県選抜	3　位	福井県選抜
	岩手県選抜		京都府選抜

個人表彰

【男子】
■オリンピック有望選手
窪田礼央　富山県選抜
■最優秀選手
大野寛将　愛知県選抜
■優秀選手
蔦谷大雅　大阪府選抜
大津慎吾　大分県選抜
伊藤飛雄　北海道選抜
狩野直樹　埼玉県選抜
中谷仁義　石川県選抜
松本航生　石川県選抜
治田大成　愛知県選抜

【女子】
■オリンピック有望選手
該当者なし
■最優秀選手
滝川璃紗　東京都選抜
■優秀選手
[illegible]井優貴子　福井県選抜
久保奈津季　福井県選抜
高橋凛　茨城県選抜
岡田彩愛　山口県選抜
[illegible]　山口県選抜
橋高由衣　山口県選抜
田村瑠莉　東京都選抜

写真提供：スポーツイベント社

総　評

大会事務局長　井上 洋文

前年度までの福島県大会から引き次ぎ、沖縄県大会初年度となる第24回JOCジュニアオリンピックカップハンドボール大会が、平成27年12月23日（水）～27日（日）までの5日間、浦添市民体育館をメインに沖縄県立武道館の両会場で開催されました。この大会は、全国47都道府県が選抜チームを編成し、予選であるブロック大会を勝ち抜いて出場する大会であるため、高い実力を備えながらも、所属する単独チームでは全国大会に出場できなかった選手が、全国大会に出場するチャンスとなる大会です。また、この大会は『将来、オリンピックや世界選手権大会等において、日本代表選手として活躍する可能性のあるジュニア選手の発掘と育成』を目的としており、各都道府県を代表して出場した選手は、身体能力が高く、戦術理解に優れた選手が活躍する、レベルの高い大会となりました。

浦添市てだこホールにおいて外の気温は27℃、ホール内は冷房を入れた状態で始まった開会式では、（公財）日本ハンドボール協会三輪一義常務理事から、2020年東京オリンピックや世界大会で日本代表として活躍する選手になってほしいという期待が込められたご挨拶をいただきました。また、2004年アテネオリンピックへの出場を含め、様々な国際大会で活躍された、バレーボール元日本代表大山加奈様からの「励ましの言葉（講話）」では、中学生時代からのご自身の経験を元に「応援される選手になってほしい。日常の全ての生活で自分を高めてほしい。」とのメッセージが選手たちに伝えられました。

大会は、男女ともに3チームずつ8ブロックに分けられた予選リーグを行い、各ブロックの1位が決勝トーナメントに進出する方式で行われました。あいにくの雨の中、予選48試合が2日間にわたって行なわれました。女子の試合においては2試合以外の試合が前半リードしたチームが順当に試合を制していました。男子の試合においては、引き分けの試合を2試合含み、1点差の試合も2試合ありましたが、前半のリードをさらに後半広げるゲームが多く見られました。そして開催地として残念ではありましたが、沖縄県選抜、および浦添市選抜は一歩及ばず予選リーグ敗退となりました。

決勝トーナメントでは、暑すぎた天候も落ち着き、勝ち上がったチームはすばらしいパフォーマンスを発揮しました。男子準決勝は2試合とも一点を争う好ゲームとなりました。

最終日、女子決勝は3年連続で決勝戦に勝ち上がった山口県選抜と3年ぶりの決勝の舞台に立った東京都選抜との対戦になりました。また、この両者が決勝で対するのは3年ぶり2回目でした。手に汗握る好ゲームとなり、後半半ばまでは山口県選抜が一進一退の攻防の中でも東京都選抜にリードを許さない展開でしたが、後半18分過ぎに逆転した東京都選抜が、最後までもつれ込んだゲームを制しました。男子決勝はJOC大会には11年ぶりの出場ですが、今年度の全中では3位となった板津中中心の石川県選抜と2年連続優勝がかかった愛知県選抜との対戦となりました。ゲームはじめは一進一退の攻防が続きましたが、愛知が少しずつリードを広げ、本大会最優秀選手に選ばれた2番大野選手の活躍が光り、地力に勝る愛知県選抜が2年連続の優勝を果たしました。

最後になりましたが、沖縄県で開催するにあたり、多大なるお力添えをいただきました（公財）日本ハンドボール協会をはじめ、各ブロック、各チーム関係者の皆様、審判員の皆様に、改めて厚く御礼を申し上げるとともに、次年度は今大会の運営で得た反省点を生かし、次年度さらに選手の皆さんが実力を発揮し、沖縄に来てよかったと思える大会となるよう改善することを誓い、大会報告といたします。みなさまの御来沖に感謝いたします。

男子優勝　愛知県選抜

愛知県選抜監督　深川 祐之

始めに、第 24 回 JOC ジュニアオリンピックハンドボール大会を開催するに当たり、御尽力いただいた日本ハンドボール協会をはじめ、浦添市・浦添市教育委員会、沖縄県ハンドボール協会、浦添市ハンドボール協会、沖縄県中学校体育連盟、並びに関係各位の皆様に改めて、心より厚く御礼申し上げます。

この度、初開催となる沖縄大会にて２年連続の優勝を果たすことができました。これも偏に日頃から愛知県選抜チームを支えていただいている愛知県の指導者の方々や、保護者の皆様、愛知県出身者の OB などチームに助言・指導していただいた多くの方々の力があってこその結果だと思っております。そして何より、３年生最後の大会に向けて、受験勉強と練習を両立させた選手たちの努力の賜物です。

本大会を振り返ってみると、一戦一戦どの試合も苦しく、精神力が問われる試合ばかりでした。どの試合もロースコアで愛知の DF 力で乗り越えた場面もありますが、３号球だから防ぐことができた場面もありました。予選リーグでは、力強くバリエーション豊かなシュート力の大阪府選抜、W ポストで巧みに攻め続ける大分県選抜。決勝トーナメント初戦は、春・夏連覇の西條中中心の富山県選抜戦、チームアクシデントがありベストメンバーではなかったものの、最後まで粘り強く本当に王者の貫録がありました。そして、縦の突破力があり速攻が速い岩手県選抜には全員ハンドボールで何とか勝利することができました。決勝においては、石川県選抜の力強い攻撃に対して、粘り強く守って速攻で点を取るという練習してきたことが最大限発揮することができました。全試合ただただ必死に取り組んでまいりました。決勝戦終了のホイッスルが鳴った瞬間は、言葉には表現できない感情がこみあげてきて、涙を抑えることができませんでした。



12 月 27 日まで歩んできた軌跡を振り返ってみると、本当に「感謝」の一言に尽きます。８月から練習が始まり、私の言葉や考え方に戸惑いを感じたこともあったでしょうが、克服し成長し続けてくれた選手たち。保護者の皆様には、選手の食事や健康の管理、対戦相手の試合の撮影、水分や補食の準備など、本当にチームを支えていただきました。また、チームスタッフはもちろんのことですが、愛知県・名古屋市の名古屋中学校の指導者だけでなく、高等学校の指導者の御指導や御支援、御協力がなければこのような輝かしい結果は得られなかったといっても過言ではありません。そして家族です。心身ともに支えてくれた妻。日々訪れる大きなプレッシャーを和らげてくれた２人の息子。本当に家族の支えが原動力になりました。優勝までの道程において力となってくださった多くの方々そのすべての方に改めて感謝申し上げます。

今後も中学３年生にとっては最後の大会である本大会が、中学生として最高のパフォーマンスが出せ、日本の未来につながる大会になるよう、微力ながらも貢献できるように精進して参りたいと思っております。最後になりますが、執筆する機会を与えていただいた機関誌の方々に感謝します。



写真提供：スポーツイベント社

女子優勝 東京都選抜



東京都選抜監督　尾石 智洋（東久留米市立西中）

沖縄開催にて12月末の暖かい気候にも驚きましたが、地域のハンドボールに対する熱さや人の温かさに感動しました。改めてハンドボールの楽しさを感じる全国大会でした。関係者の皆様に感謝いたします。そして、中学生最高峰の大会にたくさん注目が集まり、選手たちが一生懸命取り組める環境を作っている各県の方々との交流ができ、大変有意義な時間となりました。今大会は女王の福井県や山口県とどう戦うかを特に考え、チーム作りを行っていました。そんな中、JOC大会への心構えや生徒との関わり方をいつも教えて下さった利藤先生（平山中→大坂上中）がJOC関東大会前日、薬石効なくお亡くなりになりました。涙止まらぬ中、Team東京としてみんなで団結して取り組んで来ました。優勝の報告ができて、大変嬉しく思います。

今後も、選手や指導者の健やかな育成を考え取り組んでいきたいと思います。ありがとうございました。

東京都選抜コーチ　渥美 雄次（福生市立第二中）

4年前、初めてJOC東京都選抜女子チームスタッフに入れていただき、先輩指導者の方々から多くのことを学ばせていただきました。学んだことを少しでもチームに還元できればと思い、特に今年はディフェンスを中心にチームを見させていただきました。「厚さのある6-0ディフェンス」を目標にフットワークや接触の仕方、チェンジのタイミングなど、尾石監督と相談しながら練習を重ねてきました。優勝という素晴らしい成績を残せたことを非常に嬉しく思います。様々な人の支えがあり、今回のような成績を残せたことに感謝し、今後もハンドボールの指導にあたっていきたいと思います。

キャプテン　村井 智美（東久留米市立西中）

私達は今大会、全国制覇を目標に練習に取り組んできました。特に優勝候補と言われている福井選抜と山口選抜から勝利することを目標に練習を重ねてきました。メンバーは小学生のころからの仲間も多く、元気がありとても仲が良いチームです。

準決勝では小学生の頃から一度も勝ったことのない福井選抜と対戦し、高い攻撃力のある相手に対して最小限の失点に抑えて勝たせていただきました。

決勝では東久留米西中として夏の全国大会で負けた山口選抜と対戦しました。途中最大6点差をつけられましたがチーム全員が冷静に焦ることなくディフェンスシステムを建て直して、徐々に自分たちのペースに持っていくことが出来ました。一進一退が続きなかなかリードすることが出来ませんでしたが、仲間を信じて戦った結果、最後は一点差で勝つことが出来ました。3年間お世話になった尾石監督を絶対に胴上げしたいという強い気持ちが勝利に導いてくれた思います。

監督、コーチ、沢山の応援してくれた方々に中学校最後の試合で恩返しすることが出来ました。本当にありがとうございました。





3点共　写真提供：スポーツイベント社

▶戦評

男子

■準決勝

愛知県選抜　21 (11－9、10－10) 19　岩手県選抜

男子準決勝は、22年連続22回目の出場の愛知と9年連続16回目の出場の岩手との対戦となった。愛知のスローオフでゲームがスタート。開始38秒治田のサイドシュートで愛知が先制。岩手も2分過ぎに田中のロングシュートで追いつく。その直後、愛知・大野が退場となり岩手がチャンスだったが、愛知が堅いDFで守り、5分過ぎまで2対2の同点。両チーム共、DFが良く10分過ぎまで3対3のロースコアなゲーム展開となる。12分過ぎに愛知・治田の連続得点で5対3とリードするが、岩手も工藤のカットインですかさず追いつく。その後は愛知が3連取してリードするが、岩手も戸塚のサイドからのループシュートや川村のポストでくらいつく。前半残り3秒に愛知・大野がカットインを決め、11対9の愛知リードで前半を折り返す。

前半終了間際、岩手・工藤が退場しているため、岩手は後半のスタートを5名で戦うことになった。後半の出だし、岩手は愛知・大野にマンツーマンを仕掛ける。攻めのリズムが崩れたところを照井、戸塚の連続得点で一気に同点とする。ダブルヘッダーで疲労が見える中、一進一退の攻防が続く。後半12分過ぎに愛知が3連取し、リードを広げたところで岩手がタイムアウトを申請。修正を図るが愛知GK阿久津に好機を阻まれる。後半21分も前川、戸塚が角度のない所から飛び込みループシュートを決めて同点に追いつくが、愛知・内田の2連取、治田のブラインドシュートが決まり21対19とする。最後まで諦めない岩手も前川がサイドシュートを狙うが、愛知GK阿久津に阻まれゲームセット。互いに体力的にも苦しい中、最後まで見応えのある素晴らしいゲームだった。

石川県選抜　30 (14－11、16－17) 28　埼玉県選抜

もう1試合の準決勝は、埼玉と石川の戦いになった。前半1分石川が中谷のシュートで先制するも、すぐさま埼玉も高橋の連続得点などで序盤はシーソーゲーム。先に抜け出したのは埼玉。2点差にするも、石川はGK横田の好セーブもあり4連続得点で逆転、た



まらず埼玉はタイムアウトをとるも点差は縮まらず、14対11の石川リードで前半を終了。

後半巻き返しを図る埼玉・高橋、吉澤の連続得点からのスタート。石川も両バックプレーヤーの松本、中谷が得点し、中盤までは取って取られての好ゲーム。均衡を破ったのは石川で、後半17分に中谷のシュートでこの試合最大の4点差になる。タイムアウト後埼玉・狩野の豪快なロングシュートですぐさま3点差。3点差のまま終盤5分に入る。しかし、石川の勢いは止まらず、2点差で石川が逃げきる。

■決勝

愛知県選抜　26 (14－10、12－5) 15　石川県選抜

男子決勝は石川のスローオフからスタートした。立ち上がり、石川・松本のロングシュートを皮切りに、愛知もすかさず早川のシュートで応戦。その後、両チームともあらゆるポジションからまんべんなく得点を重ね、両者一歩も譲らず、一進一退の攻防が続いた。

ゲームが動いたのは前半11分過ぎ。愛知が治田のミドルシュートなどで3連続得点、13対10と3点差をつける。ここで石川が流れを変えようとタイムアウトをとる。しかし、愛知に傾いた流れを止められず、その後愛知県・大野の速攻が決まり、前半は14対10、愛知4点リードで折り返した。

後半も愛知・内田のカットインでリードを広げる。対する石川も、中谷のカットイン、ロングシュートでくいさがり、粘りを見せるも、後半8分過ぎからは愛知は堅い守りとGK阿久津の好セーブ連発により、石川にしばらく得点を許さず、その間愛知・大野の活躍により5連続得点を決め、10点差をつける展開となった。石川は、タイムアウトで流れを止めようとするが、愛知はメンバーを入れ替える余裕を見せ、最後は愛知・長坂のロングシュートが決まり、そのまま試合終了のブザーとなった。地力に勝る愛知が26対15で石川をくだした。



6点共　写真提供：スポーツイベント社

女　子

■準決勝

東京都選抜　21（11－5、10－9）14　福井県選抜

序盤、福井は東京の堅い守りを崩すことができず1点。それに対し東京は、滝川の7mT 2本と、速い攻撃を展開し4対1とリード。すかさず福井はタイムアウトを取る。タイムアウト後も東京のGK田村の好セーブが続き、福井は流れをつかむことができず11対5。東京リードで折り返す。

後半に入り、福井はDFシステムを4-2に変え、東京の攻撃を封じ、古谷の速攻、横山のポストシュートで差を詰める。しかし、東京も雨宮のサイドシュートなどで点差を広げる。残り5分、福井はオールコートDFを仕掛けて東京のミスを誘うが、終始東京の堅い守りを崩すことができず、21対14で東京が勝利を収めた。

山口県選抜　25（11－7、14－11）18　京都府選抜

もう1試合の準決勝は、山口対京都の対戦。開始早々、京都は納塚のカットインで先制すると、その後もフットワークを生かしたDFで相手のミスを誘い、速攻で加点する。一方、山口も岡田、江本を中心とした多彩な攻撃で得点すると、徐々にリズムを取り戻し、前半10分に同点。さらにGK田村の好セーブから速攻で3連続得点を挙げ、一気に流れをつかむかと思われたが、山口・木原の退場から京都も連続得点し、一進一退の攻防が続く。前半残り5分、山口のセットオフェンスが次々と決まり、前半は11対7の山口リードで試合を折り返す。

後半に入り、京都・瀧石のパスカットから得点して点差を詰めるが、山口もミドルシュートで応戦する。10分すぎから山口の堅いDFから速攻が次々と決まり出し、7点差となる。京都は小林を投入して流れを変えようとするが点差は縮まらない。残り5分、京都は橘髙と岡田にダブルマンツーをつけて山口のリズムを崩す策に出るが、速攻のミスやシュートミスが続き一歩及ばず。山口が決勝戦へとコマを進めた。

■決勝

東京都選抜　22（10－13、12－8）21　山口県選抜

女子決勝戦は、15年連続16回目出場の東京と、10年連続22回目出場の山口との対戦となった。東京のスローオフで試合が開始。両チームとも堅さが見られ、立ち上がり6分過ぎまで膠着した展開となる。その中で山口は橘髙の7mTと、岡田のミドルシュートが連続して決まり、3対0とリードする。東京は巧みなパスワークで滝川、高比良のカットインで応戦し、10分過ぎには5対5の同点に追いつく。山口はセットオフェンスが次々と決まり、8対5と3点リードしたところで東京がすかさずタイムアウト。しかし、徐々に山口のペースで試合は展開し、6点差まで広がる。20分過ぎから東京の堅いDFが機能し、速攻で加点し、前半を13対10で追い上げて折り返す。

後半開始早々、東京は、滝川の7mTを皮切りに、佐藤のカットイン、村井のパスカットから加点し、6分過ぎには同点に追いつく。そこから一進一退となり、両チームとも互角の戦いとなる。10分過ぎに足を使ったDFから山口の速攻が決まり、18対16で2点リードするも、18分過ぎには東京・高比良のポストシュートが決まり、この試合初めて東京がリードする。互角の戦いの中流れを変えようと、19分過ぎに山口がタイムアウトを請求する。残り5分、両チームとも多彩な攻めを繰り広げ、緊迫した試合が展開される。22分過ぎ、山口・木原の速攻が決まり1点差に追い上げられたところで、東京がすかさずタイムアウト。互いに1点ずつを取り合い22対21となった時点で山口はタイムアウトを請求。残り33秒では、山口はオールコートDFで応戦するが、そのままゲームセットとなり東京が優勝を飾った。

全国大会の決勝戦にふさわしいすばらしい試合となった。





全日本社会人ハンドボールチャレンジ2016

期日：平成28年2月5日(金)～7日(日)
会場：北陸電力福井体育館フレア





最終順位

男子	優勝	HC 岩手
	2位	HC 岐阜
	3位	トヨタ自動車
	4位	大同クラブ
	5位	甲府クラブ、EHC
	7位	八光自動車工業、東ソー

女子	優勝	岩手選抜
	2位	HC 福井
	3位	愛媛選抜
	4位	奈良県ナデシコクラブ

総　評　　大会委員長　土肥 正彦

本大会は平成23年度に「全日本社会人ハンドボールチャレンジ」と名称変更し、今回で5回目となる大会を福井県吉田郡永平寺町の北陸電力福井体育館フレアにて開催致しました。開催にあたり、福井県様、福井県教育委員会様、福井県ハンドボール協会様、ご協賛いただいた各企業様ならびに関係各位の皆様方にご尽力・ご協力を賜り、心からお礼を申し上げます。

参加チームは、男子の部に東北・関東・北陸・中部・近畿・中国・四国地方と幅広い地域から20チーム、女子の部に東北・北陸・近畿・四国地方から4チームのご参加をいただき、男女合わせて24チームで開催することができました。昨年度より男子の部は3チーム減となりましたが、女子の部については1チーム増えたことはもちろんのこと、2年連続で開催することができたことを大変喜ばしく思います。

組み合わせは、大会の活性化および各チームの強化を目的に、できるだけ多くの試合をして頂けるよう、男子の部ではトーナメント戦敗者チームによる敗者戦を実施致しました。また、女子の部においては、総当たりリーグ戦を実施致しました。チームによっては1日2試合のハードスケジュールではありましたが、他チームとの親睦を深めつつ技術の向上も図れたのではないかと考えております。

3日間に渡り熱戦が繰り広げられました今大会を振り返りますと、第1日目は男子の部トーナメント1回戦4試合、2回戦8試合が行われ、前回大会準優勝のHC岐阜など8チームが準々決勝に駒を進めました。第2日目には、男子の部敗者戦、準々決勝が行われました。また、この日から女子の部も行われ、会場が華やかな雰囲気となりました。第3日目、女子の部の事実上の決勝となった岩手選抜とHC福井の一戦は、岩手選抜が一度もリードを許さない安定した試合運びで初出場初優勝を飾りました。男子の部決勝では、HC岩手とHC岐阜が対戦し、前半1点をリードしたHC岩手が、後半に入っても優位に試合を進め初出場初優勝を飾り、岩手県勢のアベック優勝で大会の幕を閉じました。今年開催される「希望郷いわて国体」ではHC岩手、岩手選抜の今回のメンバーが国体チームの主力メンバーになるかと思われますが、男女ともに上位入賞されますようお祈り申し上げます。

大会期間中、各チームが優勝を目指す一方で、B級審判員の資格取得を目指す方の試験である「社会人連盟レフェリーコース」も開催されました。筆記試験・体力テスト・実技試験に合格するとB級審判員の資格が得られ、この先の審判活動の幅を広げる事ができるため、例年社会人チームの選手やOB・OGの参加があり、今回は3名の方が参加されました。このように次世代のレフェリー育成の場として本大会が活用される事は非常に嬉しく思いますし、ハンドボール競技の発展に僅かながら寄与する事ができたのではないかと思っております。

来年度のチャレンジ大会については、和歌山県和歌山市での開催を予定しており、大会開催にご承諾いただきました和歌山県ハンドボール協会様に深く感謝申し上げます。

最後になりますが、社会人ハンドボール競技の更なる活性化を目指し、今後もより広い範囲で参加を募り、多くのチームにご参加頂けるよう努めてまいりますので、関係各位の皆様方に変わらぬご支援賜りますようお願い申し上げます。

戦　評

【男子決勝】

HC岩手　23（11-10、12-7）17　HC岐阜

決勝は昨年度準優勝HC岐阜と岩手国体の為の強化チームHC岩手の対戦。

先制はHC岐阜。宇野のミドルシュート、小川の速攻で2点リードする。HC岩手もすぐさま森田のミドルシュート、速攻で同点に追いつく。その後はHC岐阜が吉村のミドルシュートを中心に攻撃を展開すれば、HC岩手は全員が走って速攻を展開し、一進一体の攻防を繰り広げ、前半を11対10と1点HC岩手がリードする。

後半立ち上がりにHC岩手は、ペースをつかみ、白石のポストを中心に攻撃を組み立てて得点を重ねる。HC岐阜も速攻、セットオフェンスと攻めるが、HC岩手GK遠藤の好守、袋屋の3本の7mスロー阻止とシュートミスが多くペースがつかめない。その後も確実に得点を重ねたHC岩手が23対17と快勝し、初出場で初優勝を飾った。

【女子決勝】

岩手選抜　18（9-7、9-6）13　HC福井

リーグ戦最終試合で事実上の決勝戦となった岩手選抜とHC福井の戦いは、立ち上がりに岩手選抜は伊藤のポストシュート、HC福井は上田のロングシュートで得点するが、その後はGKの好守も光り両チーム共になかなか得点につながらない。10分過ぎたあたりから岩手選抜の攻撃のリズムが良くなり、細かいパスから伊藤のポストシュートや與那覇のカットインなどで連続得点するが、HC福井も次第に岩手選抜の細かいパス回しに対して対応ができるようになり攻撃が続かない。対するHC福井もクロスからディフェンスをずらしてのロングシュートや、素早い速攻をつないでの得点などで岩手選抜を追い上げ、前半9対7岩手選抜2点リードで折り返す。

後半立ち上がりに、岩手選抜は佐久川のサイドシュート、沓掛の速攻で2連取して流れを引き寄せるが、HC福井はGK家城がセンターから佐久川へのサイドスカイシュートを止め、そのボールをすぐさま木村の速攻につなげるなどの好守で盛り立てる。しかし、岩手選抜も佐久川の絶妙なパスを伊藤のポストシュート、與那覇のサイドシュートと得点につなげて更にリードを広げる。終盤に入り、両チームミスが目立ち始めるが、岩手選抜がリードを守り切り、5点差で勝利した。

男子優勝：HC岩手

ＨＣ岩手コーチ　西村 和浩



希望郷いわて国体への弾みに

この度の社会人チャレンジ2016大会におきまして、参加させて頂きましたことを大変うれしく思っております。大会開催にあたり、準備や大会運営にご尽力頂きました多くの関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

さてHC岩手は、今年10月に迫った地元いわて国体開催へ向け、本県の強化指定クラブとして平成24年度に発足し、強化を進めて来ました。メンバー構成は、東北・関東学生リーグで活躍した後、地元企業や公務員として働く地元出身の選手・スタッフが中心となっています。いわて国体成年男子の部においては、HC岩手をベースに、本県出身の大学生を加え、「ALL岩手」で臨む形になります。同郷出身の選手が大半を占めることで、戦術やハンドボール観といったものは共有しやすく、これまでの強化をスムーズに進めてこられた一方で、これからの課題は、高いレベルで実践的な練習を行う機会の創出、日々の練習を一層工夫し改善、充実していくことが、当然のことではありますが大切になってくると感じています。こういった中で、チーム発足後、今大会のような高いレベルの試合において、結果を残せていなかっただけに、今回の優勝という結果はチームとして非常に喜ばしく、少しずつではありますが、強化の成果が現れてきていると感じています。このような一連の強化や気運が一時的なものに終始しないよう、また、日本におけるハンドボールの普及・発展に貢献できるよう、地域で活動するクラブチームとして微力ではありますが、我々なりに模索しながら活動を継続していきたいと考えています。

最後になりますが、今年10月開催の地元いわて国体を契機に、発足当初からこれまで、各方面の方々から、沢山のご支援やご尽力をいただきながら選手・チーム強化を継続できていることに、この場をお借りして御礼申し上げます。今後も関係各位の皆様方に変わらぬご支援を賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。

女子優勝：岩手選抜

岩手県選抜監督　小川 至門



大会を終えて　そして　いわて国体に向けて

この度の全日本社会人ハンドボールチャレンジ2016への参加に際しまして、多大なるご支援とご協力を賜りました全日本社会人ハンドボール連盟、福井県ハンドボール協会、会場の提供を頂きました北陸電力の方々をはじめ、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

さて、今年10月の国体を控え、本県成年女子は富士大学を母体とし、そこに社会人と他県有力大学の学生が加わる形でのチーム編成で強化を進めて参りました。コーチングにつきましては、大崎電気、オムロン、韓国大邱市役所、そして日本代表で長くプレーした佐久川ひとみの元で個人戦術の習得に重点をおいたトレーニングを続けております。現時点での課題として、メンバー編成上全員揃ってトレーニングできる期間が限られていること、チームの経験値が不足していることがあげられます。この課題に向き合うためにも、今大会への参加と成果は私たちにとって非常に意義深いものとなりました。大会は、男女とも各カテゴリーで活躍したプレイヤーが、経験と駆け引きを駆使した真剣勝負を展開しており、活況に満ちたものでした。対戦させて頂きました各県のチームからは、成年ならではのゲームコントロールの妙を勉強できたのと同時に、各県のスタッフの皆様からは成年チームとしての活動の在り方や工夫されていることなどを教えて頂くなど、多くの収穫を持ち帰ることができております。幸いなことに私たちは毎日富士大学のハンドボールコートでボールを使ってトレーニングすることができています。月並みではありますが、毎日トレーニングできることを大切にし、今後も岩手県成年女子ハンドボールチームという作品作りに臨みたいと思います。

10月に迎えるいわて国体は、日本スポーツ界の最高峰の場であると同時に、東日本大震災の復興の架け橋となる場でもあります。改めまして岩手県選手団の取り組む姿勢が、被災地をはじめとする県民を勇気づけるものとなるよう、そして震災以降全国各地から頂きました皆様からのご厚意に応えられるものとなるよう、気概と使命感を持ち、準備を進めて参ります。今後も関係各位の皆様方に変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、大会期間中の本県ハンドボール協会会長・小友正人の逝去にあたり、ご丁寧な御弔詞ならびに遠路わざわざの御会葬を賜りましたことに重ねて厚く御礼申し上げます。

～26年ぶり韓国破る快挙～

企画・広報委員
早川　文司

フリースロー

Free Throw

男子日本代表が来年1月、フランスで開かれる世界選手権の出場を決めた。新春1月にバーレーンでのアジア選手権で3位を確保、世界の舞台に立つ権利をつかんだのは快挙と言っていいだろう。また、2020年東京オリンピックへ向けての弾みになれば、これほど喜ばしいことはない。

1カ月にも満たない新指揮官、オルテガ監督の手腕はともかく、初戦（予選リーグ）の韓国戦を制したのが大きかった。実に1990年7月以来26年ぶりの勝利というから、その"金星の味"は格別だったに違いない。

リオオリンピック・アジア予選1位のカタールには敗れたものの、オマーン、シリアを下し予選リーグ2位で4強入り。準決勝はバーレーンに屈したが、3位決定戦でサウジアラビアに快勝、フランス切符を獲得した。

中でも韓国に勝ったことで、チームの意識が大きく変わったことだろう。これまで数え切れないほどの苦汁を飲まされてきた相手だけに、今回の白星は単なる1勝ではなく、その何倍もの価値がある。

また、前回、史上最低の9位に沈んだことを考えれば、まさに再起への願ってもない大きな自信になったことは疑いもない。

さて、話は少し横道にそれるが、アジア3位の朗報に接してしばらく経った時、ハンドボールおたくの友人から一通のハガキが届いた。文面には次のようにしたためられてあった。

オルテガJAPANがフランス切符をつかむという快挙に喜び。なぜ日本人監督では勝てないのか悩む日々です

確かにオルテガ氏は世界の名手であり、指揮官としても世界で名声を博している。せっかくなら東京までの思いはあるが、すでにアジア選手権前にデンマークのクラブと契約したと報じられたのは残念だった。

それはともかく、岩本前監督、オルテガ監督とも国内で指揮する姿をファンに見せる機会がなかったことは寂しい。次期監督の選考を一刻も早く進め、合宿ツアーや外国勢を招いた親善・強化試合、さらには女子を交えたイベント、あるいは日本リーグ勢も巻き込んでの企画、19年熊本の女子世界選手権とタイアップするなど国内ファンへアピールしてはどうだろう。

今回の「アジア3位」と世界選手権出場の喜びと自信を胸に、すべてをプラス志向にとらえ、東京を見据えた強化策を打ち出して"新生ニッポン"を盛り上げたいものである。

平成28年度 事業計画

公益財団法人 日本ハンドボール協会

1. 競技力向上（強化）に関する事業

《強化》

【基本方針】

1）熊本女子世界選手権、東京オリンピックでのメダル獲得を目指した強化活動を推進する。

2）リオデジャネイロオリンピックでのベスト8進出を目指した強化活動を推進する。

【実施計画】

1）東京オリンピックへのチームビルドの前提として「東京オリンピック強化指定選手」を指名し、特化した強化計画に基づいて、個のフィジカル強化と競技の基礎技術であるフェイント力、ハンドリング、フットワーク力、ディフェンス力などの向上と判断力の養成を実施する。同時に人間力向上（代表教育、心理サポート）に取り組む。

◆目標値

強化合宿（国内）…172日（男子）・165日（女子）

試合数（国内）…10試合

人間力向上プログラム実施回数…1セッション／毎合宿

2）海外拠点の設置に取り組む

代表チームの対外試合の少なさは、日本の強化にとって致命的であり、海外に拠点を設け、そこを中心として色々なタイプのチームとのゲームを多くこなす。また、海外留学等個人が海外チームでプレーしやすい環境を提供できるようにする。外国人コーチを積極的に取り入れる。

◆目標値

海外遠征回数…3回／年、公式国際大会参加数…2回／年

試合数（海外）…40試合／年

JOC海外優秀コーチ制度登録指導者数…各1名／男子・女子

3）国立スポーツ科学センター（JISS）の支援を受け、スマートシステムの効率的運用や、個々の選手の体力・障害の有無などをデータベース化し集積管理、フィジカルの強化と障害の予防に努める。

◆目標値

システム検討完了…6月末、システム運用開始…10月

4）強化本部の充実を図るため「強化支援グループ」を編成し、強化計画・スケジュール・国際情報等の企画・立案・サポートを行うと同時に、フィジカル・メンタルコーチ及びメディカルスタッフの充実を図る。

◆目標値

強化支援グループ会議…1回／2ヶ月

5）JOCのナショナルコーチアカデミーや在外研修制度を活用し、トップ指導者の養成を推進する。特に代表スタッフの語学力は必須になりつつあり、日本の国際競技力を上げるためにも積極的に取り組む。

◆目標値

JOCナショナルコーチアカデミー受講者数…4名／年

語学学習計画・進捗チェック…1回／四半期

6）他競技からのタレント発掘（長身選手）に取り組む。

◆目標値

発掘選手数…5名／男子・5名／女子

育成計画・進捗チェック回数…1回／四半期

7）ゲーム分析、テクニカル分析などアナリストの養成に努める。

◆目標値

ゲーム分析・テクニカル分析に特化した講習会実施回数…1回／半期

講習会参加人数…10名／回

8）アンチドーピングの徹底を行う。

◆目標値

アンチドーピングに関するプログラム実施回数…1セッション／毎合宿

アンチドーピングに関するプログラム実施回数…1セッション／毎全国大会

《強化支援グループ》

【基本方針】

2019年女子世界選手権、2020年東京オリンピックの代表チームに特化し、強化・環境・広報・マーケティングにおいて最大限のサポートを推進します。

1）強化企画については、国内外の大会およびトレーニング・マッチおよび海外拠点設置による海外派遣および国内受入体制の企画・立案、代表チームの評価システムの構築およびアンダー有望選手の発掘の強化を推進します。

2）環境企画については、マルチ・サポートとして、代表活動を最優先とした国内スケジュールの調整、ウエアや用具などの支給品の見直しおよび契約サポートを推進し、情報および医科学サポートとしては、情報科学委員会、医事委員会と連携し、横串を通して現場強化に繋げて行きます。

3）広報については、より戦略的な広報活動を展開し、マーケティングについては、win-winの関係を目指したパートナーの発掘に注力します。

【実施計画】

1）強化企画運営チーム

（1）国際試合の事業企画運営

・海外遠征企画（最低2回／年）

・国内国際企画（最低2回／年）

ヒロシマ国際の拡大、JAPANCUPの復活

外国チームを招聘し、国内サーキットの開催

（2）全国サーキットの事業企画運営

・男女日本代表チームの全国サーキット開催

日本リーグチームとの強化ゲーム開催

女子代表は、男子大学生や高校生との強化ゲーム開催

（3）海外強化拠点設置による代表選手海外派遣と国内受入れ企画運営

・海外強化拠点設置による代表選手の海外チームへの派遣、外国選手の受入れ、活動支援

（4）代表チーム評価サポート

・アドバイザーコーチの配置検討と指導助言並びに評価システム構築

（5）アンダー有望選手発掘育成強化

・アンダー代表チーム・ナショナル＆ジュニアアカデミー・ＮＴＳと連携統一管理

2）環境企画運営チーム

（1）マルチ・サポート

①国内全体スケジュール企画・管理（～2020年）

②代表チームのユニフォーム・ウエア・シューズ等の企画および契約サポート

③代表チームの用具等の企画および契約サポート

（2）情報サポート

①国際情報収集

強豪国、対戦国等に関する情報収集・管理の実施

②ゲーム分析＆スカウティング

ゲーム分析＆スカウティングのノウハウ共有（監督・コーチ・全カテゴリー）を図る

③ツールの開発

情報分析に関する最新テクノロジーの開発を図る

④データベースの活用と質的向上

スマートシステム・チェルダスの活用と質的向上を図る

⑤他競技における球技系サポート

他競技におけるゲーム分析システム、スカウティングやツールの活用方法を調査する

⑥技術・戦術、体力（形態含む）課題の解決方法の検討と提示

技術・戦術、体力（形態含む）課題に対する解決方法（トレーニング方法を検討、提示する

（3）医科学サポート

①世界と対等に戦うために必要な心身のベース作り

②医科学情報収集による傷害傾向の予防・強化対策の提案・実施

③パフォーマンスにつながる食育作りと取組み

④fd持てる力を発揮するためのメンタル強化

3）広報・マーケティングチーム

（1）広報活動

広報委員会及びマーケティング委員会と連携して活動を行う。

①代表選手露出・チーム関係者の露出に際するリスクマネジメントおよび情報収集管理

②利害関係者とのコミュニケーション（良好な関係作り、継続的情報発信）

③マスメディア、ソーシャルネットワークシステムを活用した広報活動

④戦略的広報活動企画（タイムリーに正確に）、環境整備

（2）マーケティング
①スポンサー（既存スポンサー対応、新規スポンサー開拓・獲得）
②TV放映（放映権）、発刊物、知的財産権等の管理
③グッズ作成販売
（3）プロモーション
①ブランディング（ハンドボールの価値を高める活動）、市場調査分析
②イベント企画運営
③国際試合などの観客動員
④代表チームの映像編集販売＆ネット配信など
⑤社会貢献活動

《情報科学専門委員会》

【基本方針】

1）分析サポートについて
（1）ナショナルチームが活用するための情報（日本ナショナルチームおよび各国の分析）を提供する。
（2）ナショナルチームの活動における継続的な分析や情報を蓄積するとともに、ナショナルチームの客観的な評価（人的および活動の方向性）の材料とする。
（3）調査研究（特殊分析）を実施し、選手へのフィードバックによる個人戦術向上および強化指針の作成に活用する。
2）体力サポートについて
（1）ナショナルチームのオリンピック出場、メダル獲得を実現するための「ハンドボール選手の体力ガイドライン作成」を主眼とする。
（2）日本代表選手における体力を測定評価し、その現状を把握するとともに世界各国の選手との比較を行うことにより（1）の実現を図る。
（3）各世代のハンドボール選手の体力を測定評価し、各世代別の体力基準値を作成する。その基準値をもとに体力トレーニング目標を設定するための体力ガイドラインを作成する。

【実施計画】

1）国際情報収集
強豪国、対戦国等に関する情報収集・管理を行う。
⇒国際大会の視察、情報収集（各大会）
2）ゲーム分析＆スカウティング
ゲーム分析＆スカウティングのノウハウ共有（監督・コーチ・選手、全カテゴリー）を図る。
⇒全カテゴリースタッフとの情報交換会（1回／年）
3）ツールの開発
情報分析に関する最新テクノロジーの開発を図る。
⇒現在すでに運用、JISS、大学指導者（研究者含む）とのさらなる連携
4）データベースの活用と質的向上
スマートシステム・チェルダスの活用と質的向上を図る。
⇒現在すでに運用、全カテゴリーへの普及・活用（1回／年）

《医事専門委員会》

【基本方針】

強化本部の基本方針である2019年女子世界選手権、2020年東京オリンピックの日本チームの「メダル獲得」に向けての取り組みに対して最大限のメディカルサポートを行う。

【実施計画】

1）medical databaseの確立
5年にわたる強化期間には、多くの選手が代表候補、有望選手として選ばれる。そうした選手たちの身体発達の記録を残していく必要がある。また育成期間に大きな外傷も生じうるし、内科的疾患により常用薬を必要する場合も考えられる。ナショナルの活動にはドクター／トレーナーが帯同するが、常に選手とコンタクトをとれるわけではないので、医事専門委員会が管轄するデータベースにて情報共有を行う。
2）傷害予防
選手生命を脅かす運動器障害の予防は、代表選手の継続的強化には不可欠である。そのためには定期的なメディカルチェックを行い選手の個別指導を行う。
（1）帯同ドクター／トレーナー派遣：日本代表、学生、U-22、ジュニア、ユース、U-16、ビーチハンドの男女の14カテゴリーの国際大会に随時派遣。
（2）一人のドクター・トレーナーでの選手のケアと状態把握には限界があるため、グループ群を構成して合宿・大会帯同時のケア等を行う。
（3）強化指定選手らと綿密に連絡を取るためのネットワークを確立する必要があり、強化部との連携を密に行う。
（4）トレーナー部会とも緊密な連携をとり、より選手に近い立場のトレーナーの意見を多く取り入れる。
3）身体づくり、コンディショニング
日本代表選手に対して国立スポーツ科学センター（JISS）に協力依頼して栄養指導を行う。
ターゲットエイジを対象に、身体づくり、コンディショニングの考え方を浸透させ、戦う基礎を作り上げる必要がある。ナショナルアカデミーを実践している卓球、フェンシング、レスリングといった競技は、毎日の食生活にも十分な手が加えられており、自然に必要なことが備わる体制が作られている。
まず身体作りのアシストとして、「パーソナルアドバイザー制度」を導入した。これは、全国に散らばる強化指定選手に対して、日々の食生活、サプリメントなどのアドバイスを行い、身体を鍛えるトレーニングは個別にお願いすることになるが、身体作りの基礎となる食生活において、定期的なアドバイスを可能とするものである。寮生活をしている大学生、社会人であれば、比較的管理栄養士により補完される可能性はあるが、それ以外の場合は、スポーツ栄養学という考えを導入した食生活を行っている選手はほぼいないと考えられる。
また、いくつかの食品メーカーから栄養補助食品のサポートの申し出の話があり、それらも有効活用したい。選手個々に自分の目標とする身体イメージを持ってもらい、それに向けた食生活を送る一助となる取り組みとしたい。
メンタルコンディショニングの評価を取り入れその強化を図る。
4）アンチ・ドーピング活動
（1）選手に対して
アンチドーピングに関するプログラム実施回数…1セッション／各カテゴリー合宿
アンチドーピングに対する啓蒙活動…1セッション／各種全国大会
（2）2015年度よりナショナルの各カテゴリーのチームスタッフ（監督・コーチ・ドクター・トレーナー等）は日本アンチ・ドーピング機構（JADA）、JHA主催の研修会での研修を年1回行うことを要請した。2016年度は研修会参加を義務付けとする。
5）スタッフ体制の整備
婦人科疾患の専門医、女子選手のサポート体制として女性メディカルスタッフおよびメンタル指導者の加入または協力要請を行う。
加盟団体におけるメディカルサポート体制については、11％〈5／47（都道府県）〉しかメディカルサポート体制が取られていなかった（2015年3月現在）。そのため（1）競技会大会運営における医事・衛生指針作り（2）ドクターバンク制度：各加盟団体担当者より、ハンドボール競技特性を理解した医師の紹介を希望。2015年度より日本ハンドボールリーグの大会ドクターとしての活動準備を進めている。今後は、登録した医師を中心に医事委員会への協力を要請する予定である。（3）メディカルサポート体制（大会ドクター、トレーナーの補助者）の整備：2009年より熊本県ハンドボール協会主催で医療系の学生を中心に「ハンドボールメディカルサポーター育成講習会」を行い約200名が修了した。日本協会としてもこのシステムを検討し導入していきたいと考えている。
6）「ハンドボールとスポーツ医・科学」学術集会開催（2019年女子世界選手権）
IHF、AHFの医事委員会との連携を図り、最新の世界情報を取り入れメディカルサポートに役立てる。

《強化部会》

【基本方針】

1）2016年男子ユース、ジュニアアジア選手権での世界選手権出場権獲得するための強化活動を推進する。
2）2016年女子ユース、ジュニア世界選手権でのベスト8進出を目指した強化活動を推進する。

【実施計画】

1）事前海外遠征（国際試合）での強化
アンダーカテゴリーの選手にとって、海外チームとの対外試合の少なさは、致命的であり、経験がないまま本大会を向かえる事で成績を収めるには至らない。したがって本大会以前に様々なタイプのチームと対戦し経験を積んで、本大会に臨ませる。
◆目標値
国際試合数…5回／年（本大会事前試合含む）
2）東京オリンピック以降のチームビルドの前提として特化した強化計画に基づいて、個のフィジカル強化と競技の基礎技術であるフェイント力、ハンドリング、フットワーク力、ディフェンス力などの向上と判断力の養成を実施する。同時に人間力向上（代表教育、心理サポート）に取り組む。
◆目標値
強化合宿（国内）…11日（男子U24）・15日（女子U24）
…21日（男子U21）・8日（女子U20）
…25日（男子U19）・20日（女子U18）
人間力向上プログラム実施回数…1セッション／毎合宿
3）国立スポーツ科学センター（JISS）の支援を受け、スマートシステムの効率的運用や、個々の選手の体力・障害の有無などをデータベース化し集積管理、フィジカルの強化と障害の予防に努める。
◆目標値
システム検討完了…6月末、システム運用開始…10月
4）強化部会の充実を図るため、強化本部が編成している「強化サポートグループ」と共に、強化計画・スケジュール・国際情報等の企画・立案のサポートとを受けると同時に、フィジカル・メンタルコーチ及びメディカルスタッフの充実を図る。
◆目標値

強化部会会議…1回／6ヶ月

5）強化部会を編成し、アンダーカテゴリー強化に関する一貫した指導のもと、強化計画、強化実施計画、強化報告の充実を図ると共に、情報（対戦国情報・選手情報・自国選手情報）の共有化を行いでデータベース化し、蓄積を行う。

◆目標値

強化部会男女共に…1回／4ヶ月

6）他競技からのタレント発掘（長身選手）に取り組む。

◆目標値

発掘選手数…5名／男子・5名／女子

育成計画・進捗チェック回数…1回／四半期

7）アンダー強化活動においてゲーム分析、テクニカル分析などアナリストの養成に努める。

◆目標値

ゲーム分析・テクニカル分析に特化した講習会実施回数…1回／半期

講習会参加人数…10名／回

8）アンチドーピングの徹底を行う。

◆目標値

アンチドーピングに関するプログラム実施回数…1セッション／毎合宿

アンチドーピングに関するプログラム実施回数…1セッション／毎全国大会

《アスリート委員会》

【基本方針】

1）アスリートの夢を集約し、アスリートの様々な環境改善に役立てる。

2）アスリートを支援し、権利を守る。アスリートの意見を代弁する。

【実施計画】

1）アンチドーピングの啓発活動に協力する。

2）NF主催事業に協力し、ハンドボールの普及と発展に寄与する。

3）JOC、各NFのアスリート委員会の連絡拠点となる。

《競技者育成技術委員会》

【基本方針】

強化・指導・普及・NTS・ジュニアアカデミー・審判等からの情報を共有し、日本ハンドボールのレベルアップを図るための強化・育成の指針を提示する。

【実施計画】

1）技術委員会は、日本の進むべき方向性を構築する「強化・育成の戦略会議」の色彩を持つことから、名称を「強化・育成戦略会議」に改名する。

2）本会議の構成員を、議長、強化本部長（強化担当）、情報科学委員長、ジュニアアカデミー委員長（育成担当）、NTS委員長、普及指導本部長、指導部長、普及部長、競技本部長、審判部長とし、必要に応じてアドバイザーや実務担当者を招聘する。

3）本会議に作業部会を設置する。現在は、すでに進行している「テクニカルチーム」があり、必要に応じて追加編成する。

4）平成27年度提案の強化・育成指針の進捗状況（達成度）をチェックする。

5）四半期ごとにチェック、および進度に応じた修正を行う。

6）具体的な実施内容は以下の通りとする。

強化：各カテゴリーの国際大会の評価（stats分析と戦い方）と強化指針との整合性をチェックする。

指導・普及：各カテゴリーの国際大会の評価（技術・戦術の質的分析）と育成指針との整合性をチェックする。また、国内での指導指針の実施度をチェックする。

NTS：指導内容策定とその実施度をチェックする。

ジュニアアカデミー：指導内容策定とその実施度をチェックする。

審判：指導指針に即した審判評価を行う。

7）平成29年度に向けた強化・育成指針の検討と作成を行う。

2. 発掘・育成事業

《ナショナルトレーニングシステム（NTS）》

【基本方針】

1）若年層からナショナルチームまでの一貫指導を実施する。

2）世界で活躍する優秀なアスリートの発掘・育成活動を実施する。

3）指導の一貫性を図るため指導者の育成を行う。

【実施計画】

1）NTS技術指導委員会によるプログラム作成（一貫指導プログラム）

2）全国・各ブロックでブロックトレーニングを実施（中学生・高校生対象）

3）1月に各ブロックから推薦の選手・指導者・審判によるセンタートレーニングを実施（年1回）

《JHAジュニアアカデミー》

【基本方針】

1）将来の日本代表として活躍できる人材の育成を行う。

2）人間形成の支援と競技力向上の両立を図る。

3）体力トレーニングを行い、体格形成を図る。

【実施計画】

1）JOC専任コーチングディレクター（NTC担当）、JOC専任コーチングディレクター（ジュニアアスリート担当）により実施する。

2）育成プログラムを作成する（実技プログラム、知的プログラム、人間教育プログラム、体力プログラム、健康管理プログラム等）。

3）年8回の実施を計画する。

3. 指導・普及に関する事業

〈指導部〉

【基本方針】

1）国内外のハンドボールに関する様々なデータや情報を収集・分析（調査研究・情報蓄積・情報加工）し、指導者に還元していく内容を統括する。

2）国内・国際関係の指導者育成に関する映像の管理（情報収集・記録・情報公開）を行う。

3）都道府県における指導担当委員を掌握するとともに、日体協指導者資格に関して、講習会を含めて、統括する。

4）NTS委員会と有機的に連携し、その指導内容について検討する。

《講習会企画専門委員会》

【実施計画】

1）日体協公認コーチ養成講習会の開催（6月；東京）

2）全国U-12指導者研修会の開催（8月；京都）—小学生委員会と連携

3）ブロック指導者研修会の開催（8月；9ブロック）—NTS委員会と連携

4）日体協免除適応コース検定試験の開催（2月；東京）

5）トップコーチセミナーの開催（2月；東京）

6）コーチ・レフェリーシンポジウムの開催（3月：東京）—審判委員会と連携

《指導映像専門委員会》

【実施計画】

1）全国小学生大会決勝映像のアップロード（8月）

2）全国中学校大会の決勝映像アップロード（8月）

3）全国JOCカップの決勝映像アップロード（12月）

4）春の全国大会の決勝映像アップロード（3月）

5）指導者講習会の記録映像・資料をアップロード（6、8、2、3月）

6）指導委員会ホームページのオンタイム更新

《調査研究専門委員会》

【実施計画】

1）全国大会（該当4大会）の映像収集および情報分析（8、12、3月）

2）国際大会の映像収集および情報分析（随時）—情報科学委員会と連携

3）国際大会における講習会への派遣（随時）

4）全国小学生大会および全国JOCカップのゲーム様相分析を筑波大学ハンドボール研究室と共同で行う。（9月、1月）

《指導者組織専門委員会》

【実施計画】

1）全国指導委員会の開催（2月）

2）都道府県における日体協公認スポーツ指導員養成講習会の掌握（随時）

3）日体協公認コーチ養成講習会の運営（6月）

4）日体協免除適応コース検定試験の運営（2月；東京）

5）都道府県における指導者講習会の実態調査報告書2016（3月）

6）指導者資格に関する総合的意識調査報告書2016（8月）

《NTS指導専門委員会》

【実施計画】

1）NTS内容策定グループに指導委員会委員派遣（5月、11月、3月）

2）NTSシミュレーションでのインストラクター研修（5月）

3）NTSブロックトレーニング指導者研修（8月）

4）NTSセンタートレーニング指導者研修（1月）

〈指導委員会特別プロジェクト〉

《ハンドボール用語統一Project》（2016 − 2020）

【基本方針】

1）日本ハンドボール界にとって積年の課題であるハンドボール用語の統一を3年計画で実現する。

2）指導委員会単独で進めることは困難であり、審判委員会および強化委員会ともすり合わせをしながら、丁寧に進めていく必要がある。

【実施計画】

現在日本で使われているハンドボール用語を抽出し、世界標準で使われている用語と対比するとともに、地域による相違や強化・指導・審判での相違に関するレポート作成（3月）

《H級（仮称）指導者基礎資格Project》（2016 − 2018）

【基本方針】

すべての指導者がライセンスを持って指導する時代を目指し、日本協会独自の指導者資格の発行を見据えて、環境整備を推進する。

【実施計画】

指導者組織専門委員会と共同した実態調査報告書（3月）

《指導者養成テキスト Project》（2016 ― 2017）
【基本方針】
1）都道府県単位で開催されている日体協公認指導員養成講習会等において、専門科目テーマは規定されているが、実際の講義内容は講師に一任されている現状に対し、一貫指導の観点からも「日本ハンドボール協会指導者養成テキスト」の作成に取り組む。
2）このテキスト作成はH級（仮称）指導者基礎資格の創設にも大きく関わる事項であり、都道府県において地元の公認コーチ資格保有者が講師を務めることになるシステムの根幹をなすものでもある。
【実施計画】
NTS 委員会との連携によって、講習会における実技および理論の必修・選択テーマを選定し、その概要についての集約作業（6月）
〈普及部〉
【基本方針】
1）小中学校の授業におけるハンドボール指導の実践研究に取り組み、国体開催前の市町村行政に対し、ハンドボール授業の取り組みを働きかける。
2）ハンドボールを生涯スポーツとして取り組む環境を整備する。
3）ビーチハンドボールの競技人口を増加させる方策に取り組む。
4）日本代表レベル選手のキャリア育成の仕方について現状課題を把握するとともに、女子チーム指導者が女性アスリートの心身の特性について理解を深める。
5）車椅子ハンドボールの普及発展を計る。
《学校体育専門委員会》
【実施計画】
1）第19回ハンドボール研究集会（授業研究検討）の開催・運営（8月：長崎）
2）学校体育専門委員会の開催（4月：東京、8月：長崎、12月：愛知）
3）授業実践の研究委託（6校）
《マスターズ専門委員会》
【実施計画】
1）第24回全日本マスターズ大会の開催・運営（8月：豊田）
2）マスターズ委員会の開催（8月：豊田、3月：山梨）
3）マスターズ実態調査報告書 2016（3月）
《ビーチ専門委員会》
【実施計画】
1）第18回全日本ビーチハンドボール選手権大会の開催・運営（8月：）
2）ビーチ専門委員会の開催（8月：）
3）全国のビーチハンドボールにおける実態調査報告書 2016（12月）
《キャリアサポート専門委員会》
【実施計画】
1）日本代表レベルの選手が自らのキャリア育成について展開できるような事業を選手と共同で作成し、ジュニア選手を対象に実施する。
2）順天堂大学女性スポーツ研究センターと連携を図り、女子チームの指導者を対象とした女性の心身の特性について理解を深めてもらうための事業を実施する。
《車椅子専門委員会》
【実施計画】
1）第14回日本車椅子競技大会の開催・運営（11月：未定）
2）車椅子委員会の開催（11月：未定）
3）車椅子大会への参加チーム実態調査報告書 2016（3月）
〈育成部〉
【基本方針】
小中学生におけるチームの充実および一貫指導体制の確立を最重要課題とする。
《小学生専門委員会》
【実施計画】
1）全国指導者研修会（年2回）において、2018年からの全国小学生大会における指導者ライセンス義務付けに向けての準備を開始する。
2）指導委員会と連携してU－12指導法を整理し、NTS 指導内容に反映する。
3）全国小学生大会、ブロック交流会のあり方を2年計画で検討する。
4）第29回全国小学生大会の開催・運営（8月：京都）
5）小学生専門委員会の開催（5月：東京、8月：京都、11月：東京、2月：愛知）
6）ブロック委員会議の開催（5月～2月、全国9ブロック）
7）全国研修会の開催（8月：京都100名、11月：東京40名）
8）J級公認指導員の養成・更新（全国5都道府県以上、新規50名、更新50名）
9）日韓親善交流事業〈派遣〉（8月：山口県チーム）
10）全国小学生大会のゲーム様相分析報告書（第2報）（9月）
11）都道府県における小学生大会の実態調査報告書 2016（12月）
12）海外における用具等の実態調査報告書 2016（3月）
《中学生専門委員会》
【実施計画】
1）全国 JOC カップにおけるボール問題について、実際のゲーム分析を行いながら、その検証を3年計画で行う。
2）日本協会主催の中学生大会における指導者ライセンス義務付けの開始準備を行う。
3）全国大会の開催・運営（8月全中：石川、12月 JOC：沖縄、3月春中：富山）
4）中学生専門委員会の開催（8月：石川、12月：沖縄、3月：富山）
5）地域クラブチームの実態調査報告書 2016（12月）
6）全国 JOC カップのボール問題中間報告書（3月）

4. 競技運営に関する事業

【基本方針】
1）日本選手権を始め、日本協会主催大会の管理運営にあたる。
2）「大会開催マニュアル」「大会運営マニュアル」を充実させる。
3）テクニカルデレゲート（TD）制度の充実にあたる。
4）検定用具の整備、競技用具の開発にあたる。
【実施計画】
1）大会開催マニュアル（競技運営を含む）、TD の任務を4月に改訂発行し、大会、競技運営の充実を図る。
2）ジャパンオープントーナメント（8月）、国体（10月）、日本選手権（12月）、春中大会（3月）を、主催団体として直接運営にあたる。
3）9月までにブロック大会を5大会以上、12月までに都道府県大会を10大会以上、12月までに連盟主催大会を3大会以上視察し、各種大会の運営に関する改善指導をする。
4）競技役員の資質向上をはかるため、9月までに5ブロック（地区・都道府県別を含める）以上の競技役員講習会を開催する。
5）年間を通して選手・チーム役員登録の業務にあたる。
6）3月までにゴール、ボール、ネットなどの企業との合同会議を年1回以上開催し、競技用具の改良、開発を図る。
7）3月に競技運営連絡協議会を開催する。

5. 競技規則（審判）に関する事業

【基本方針】
1）指導体系の強化・充実
2）レフェリーの発掘・育成および拡大
3）競技規則の徹底と競技運営管理の徹底
4）国際基準に沿ったトップレフェリーの強化
5）2019年・2020年、更にその後を見据えた国際レフェリーの育成
【実施計画】
1）指導体系の強化・充実
（1）ブロック審判長・都道府県審判長の指導力向上と、指導体系の強化・充実のため、審査指導専門委員会・ブロック審判長合同会議を開催。（5月）
2）レフェリーの発掘・育成および拡大
（1）JHA レフェリーコース・A／B級審査会の開催
（2）高体連、学連、社会人連盟と連携した発掘・育成
（3）女性レフェリーの発掘・育成。（レフェリーアカデミー・全日本大会への登用）
3）競技規則の徹底と競技運営管理の徹底
（1）競技規則の正しい運用のため、各地講習会の内容統一。『審判員の目標』をライセンスごとに制定。（年度当初）
（2）競技運営委員会および指導委員会と連携し、指導者やプレーヤーへの講習会参加の働きかけとともに、NTS への参加（1月）、コーチ・レフェリーシンポジウムの開催（3月）で相互理解を目指す。
（3）全日本大会担当レフェリー研修会の開催。（6月）
（4）全日本大会（ジャパンオープン・国体・日本選手権・春中）においてレフェリー・テクニカルデレゲート合同会議の実施。
4）国際基準に沿ったトップレフェリーの強化
（1）日本選手権・日本リーグなど、トップゲームにおける国際基準の判定を徹底させるため、技術・情報の分析および迅速な伝達。
（2）レフェリーアカデミーの推進。（年間6回）
（3）トップレフェリー研修会の開催。（12月）
5）2019年・2020年、更にその後を見据えた国際レフェリーの育成
（1）IHF／AHF レフェリーの育成と併せ、国内レフェリーへの最新の国際情報提供。
（2）有望レフェリーの海外研修派遣を実施。

6. 総務に関する事業

【基本方針】
1）改革から変革につなげるべく、組織の活性化を推進する。
2）諸規程、規約を見直し、ガバナンス・コンプライアンス体制を確立するとともに、強化、リーグ活性化など、将来を見据えた規制緩和を推進する。
【実施計画】
1）常務理事職務分掌の見直しと改定、権限と責任を明確にする。
2）登録規程の改定を検討し実施する。
3）諸規程の見直しを実施する。

4）事務局内の整備・充実を行う。
5）環境保全活動としての「来た時よりも美しく」運動を、リーグ・各連盟にまで徹底し推進する。
6）日本協会主催行事の質的向上を図る。

7. 広報に関する事業

《広報事業》
【基本方針】
1）注目度アップ、バリューアップに繋がる情報の発信を図る。
2）協会事業の周知徹底を図る。
3）マスコミとの交流を拡大する。
4）協会広報のスムーズな運営を図る。
5）インターネット情報の充実・拡大を図る。
6）強化支援グループ及び日本リーグと連携して活動を行う。
【実施計画】
1）代表チームの情報発信を充実させる
代表スケジュール、代表メンバーの情報を詳細に発信する。
2）マスメディアへの積極的情報発信
プレスリリース・記者発表・記者会見・定期懇談会を実施する。
3）ホームページの充実
トップページから代表情報が誰でもわかるような作りにする。
4）インターネットと機関誌の連携充実
機関誌掲載情報についてホームページにもアップする。
5）過去の記録のデータベース化
8月までにホームページに掲載する。
6）組織の強化
作業推進のため、まずは人員の補強をする。
7）マーケティングとの連携によるバリューアップ活動の推進
8）リオデジャネイロオリンピック終了を期して、9月に「日本協会の今後のプラン」を発信する。
《機関誌発行》
【基本方針】
機関誌発行業務を通して、日本協会の方針及び計画の徹底と都道府県協会を始め各連盟等日本協会組織全体の情報共有化と組織としての連帯感の高揚を図る。又、協会活動の足跡を、機関誌固有の一覧性及び保管性として広く組織内外に提供し、ハンドボールの指導・普及・強化等夫々の関係者に様々な関連情報を伝え、ハンドボール界全体の発展に寄与する。
【実施計画】
1）施策方針・理事会・各委員会組織からの情報発信としての場、都道府県協会からの情報発信としての場として、機関誌をより効果的な利用を追及する。その為、理事会や理事長会議などを通して、機関誌への報告・掲載の啓蒙を図る。
2）インターネット掲載情報との密接な連携を図り、機関誌と相互の情報の質を高めることで、情報発信機能の役割を高める。
3）大会報告記事では単に報告にと留まらず、大会を取り巻く様々な状況や環境などを取材することで、大会の特徴など読者の興味に応える掲載内容の充実を図る。
4）昭和34年以来560号を刻む機関誌ではあるが、時代の環境に対処できているのか、更には掲載内容については読者の要請にマッチしているのか、協会の方向性が正しく伝わっているか、等適宜見直しを図り運営に努める。
5）年間8回（1月、3月、6月、8月は休刊）の発行回数を維持する。
発行一回当たり、平均では36ページ、発行部数は5000部を目途とする。
6）指導者のみならず、選手・部員も容易に購読できるよう簡易型「回覧簿」の提供を図る。
7）2019年、2020年を踏まえた連載企画を実現する。世界選手権、オリンピックの歴史と日本ハンドボールの関わりを、元全日本選手のインタビュー、若しくは座談会などで語って頂く機会も検討する。
《インターネット》
【基本方針】
新たな情報発信方法の実施と円滑な運営に取り組み、情報提供の充実と作業の効率化・スピードアップを図る。
【実施計画】
1）日本協会ホームページの充実
（1）代表チームの情報発信の充実を図る。
・合宿情報やメンバー情報等の速報化を図る。
（2）試合結果等の情報発信のスピードアップと内容の充実を図る。
2）円滑な運用のための体制強化を図る。
・オペレーション人員の増強。
・コンテンツの担当部門から直接更新する体制に整え実施する。

8. 財務・会計に関する事業

【基本方針】
平成27年度から実施の特別強化支援金やマーケティング収入の増加はあるものの強化事業の充実やその他事業を充実させるためには、依然厳しい財政状況にある。諸事業の円滑な推進のためには、マーケティング委員会を中心とした協賛活動や支援獲得活動の取り組みによる収入確保と各種補助金助成金の有効活用を図る必要がある。支出面では、各事業において計画的予算執行を依頼し、効率の良い事業運営を推進していく。2019女子世界選手権開催の財源確保にも取り組んでいく。
【実施計画】
1）適正な予算配分と管理の徹底を図る
2）マーケティング収入による財源確保を行う
3）各種補助金助成金の活用により、事業負担の軽減を図る
4）2019女子世界選手権開催の財源（積立金）確保

9. 国際に関する事業

【基本方針】
1）IHF（国際ハンドボール連盟）、AHF（アジアハンドボール連盟）、EAHF（東アジアハンドボール連盟）の一員として、メンバーシップを発揮し、国際貢献・国際交流の発展に寄与する。
2）各NF、地域エージェントとのコネクションを広げ、代表をはじめ、各カテゴリーの強化・育成が促進しやすい環境を整備・構築する。
3）国際大会への派遣・受け入れに関する諸手続きを遅滞なく実施する。
4）2019熊本女子WC、2020東京五輪開催に係る国際的活動に迅速に対応する。
【実施計画】
1）IHF・AHFからの書簡を翻訳し、関係部署へ連絡・報告する。
2）チーム派遣等に関する諸手続きなどを遂行する。
3）チーム受入れ等に関する諸手続きを遂行する。
4）レフリー、TDなど派遣手続きを遂行する。
5）海外移籍等の実務支援を実施する。
6）IHF・AHFとの関係強化のために国際委員を大会派遣する。
7）2019熊本女子WC開催に係る国際活動を支援する。
8）2020東京五輪開催に係る国際活動を支援する。
9）国際人養成プログラム受講者を検討し受講させる。

10. 事業企画に関する事業

【基本方針】
1）2019、2020に向けて、ハンドボールの強化活動に沿った事業を展開する。
2）2019、2020に向けた国内での代表露出を展開する。
【実施計画】
1）男女日本代表チームによる全国サーキットを企画する。
2）男女日本代表チームによる国際大会を行う。年2回
3）日本協会主催の高校大会を毎年1月に企画する（平成28年度より）。
4）全国中学生クラブ大会の拡大を図る。
5）春のインカレを毎年3月に企画する（平成29年度より）。

11. マーケティングに関する事業

【基本方針】
1）2019年、2020年に向けて、マーケティング活動の更なる推進を図る。
2）ハンドボールが持っているあらゆるバリューの創出を図り、マーケティング活動を行なう。
3）日本協会の収入の大きな柱で2019年、2020年に向けた強化のための資金としてさらなるマーケティング収入の確保・拡大を図る。
【実施計画】
1）新規協賛企業の開拓、拡大+4、000万円
（1）オフィシャルスポンサー（＋5社）、オフィシャルサプライヤー（＋2社）の確保と拡大
（2）ナショナルユニフォーム広告（＋3社）
（3）機関誌、ホームページ広告（＋5社）
（4）国内大会ごとの協賛会社獲得（プログラム、ボード他）と都道府県、連盟へのマーケティング活動の指導
（5）物品販売
2）ファンドレージングの推進（500万円）
3）オリジナルグッズ、DVD等の企画販売（300万円）
4）2019年に向けた特別協賛企業（IHF、JHA）獲得計画の立案
5）各種イベントの企画（スポンサー感謝の集い他）
6）JOC、トップリーグ連携機構との連携・協力によるマーケティング活動の向上
7）「広告代理店」「イベント会社」「グッズ企画販売会社」等との取り組みを推進する。
8）各委員の担当を明確にして、事務局の活性化を図り、実施計画の推進を図る。
9）強化支援グループ及び日本リーグと連携して活動を行う。

12. 日本リーグに関する事業

【基本方針】

日本リーグの理念に基づき、ハンドボールのステータスを向上させるために全力で取り組む。日本協会強化本部と連携をして、日本リーグ選手が日本代表選手として国際大会で戦い抜くため、更なる試合内容の充実をはかり、競技力向上に努めると共に日本代表チームの強化を支援していきます。

地域に根ざしたホーム＆アウェイを行い、集客数の改善に努め、施策の１つとして集客指定試合を各チームに義務づけます。また、開催地との連携を密に取り大会の企画・立案の支援を行い、運営等独自性のある大会運営を行い、日本ハンドボール界の運営の手本となるよう「プロの興行集団」を目指します。

未来の日本リーグ選手を夢見る子供達のために、地域に密着した環境作りを推進します。そしてリーグの更なる充実のために「新規加盟チームの誕生」を目標として、プロジェクトを中心に強化し早期実現に努めます。その一環とし「チャレンジ・ディビジョンチームの参加拡大」に努めていきます。

財政基盤の確立のため、マーティング部の充実を図ります。次の10年、50周年に向けたビジョンの実現に向けた取り組みをスタートします。また、日本ハンドボールリーグのバリューアップのために、新たに設定した、チーム広報担当者とも連携を密に取りながら様々な媒体を利用したメディア等への露出を増やしていきます。

【実施計画】
1)《チーム設立・基盤強化プロジェクト》早期実現に向けたプロジェクトの強化
（1）各地域での新規参入チームの誕生を支援する
（2）新規チームの日本リーグ参入への支援
（3）日本協会、都道府県協会との連携強化
2)《チャレンジ・ディビジョン》社会人企業チームおよびクラブチームの発展に貢献
（1）東西２ブロックのリーグ戦開催
（2）各ブロックのリーグ戦結果による順位決定戦を開催
（3）女子チームのプレ大会の開催（29年度女子大会開催計画）
（4）全試合レフェリー指導者の配置
（5）全国大会としての再整備（日本協会、都道府県協会への周知）
3)《特別強化プロジェクト》強化拠点としてのリーグで、レベルの高い指導者の育成に取り組み、選手育成に活かす。
（1）日本協会強化部・指導委員会との連携を密にする
（2）資格制度に向けて準備に入る
（3）国内ハンドボールだけでなく、海外や他の分野からも幅広い分野からの研鑽をつむ
4)《総務部》運営基盤の改善および諸整備を推進し日本リーグ運営を強固且つ円滑なものへの改革。
（1）リーグ諸事業における実施項目の整備
（2）円滑な大会運営に必要な実施項目、各種ツールの整備
（3）開催地との連携強化（第３地域集客UP）
（4）社会貢献活動の推進
（5）リーグ事務局およびリーグ委員の連携強化
5)《マーケティング部》日本ハンドボールリーグの認知度の向上
（1）オンラインメディア含めたマスコミ各社との関係を強固にする
（2）リーグとしての情報発信を強化する
（3）広報活動の成果などのマーケティングに資する情報を整備する
（4）各チーム、開催地と連携してのチーム・リーグ戦開催情報、試合結果の情報発信を強化する
（5）リーグ協賛社を新規に獲得する
（6）レギュラーシーズンの冠スポンサーを獲得する
（7）プレーオフの付加価値を高め、協賛収入の増加を図る
6)《競技・審判部》レフェリーの技術向上及びチームとの共通理解
（1）コーチ・レフェリー合同研修会開催
（2）JHLオフィシャル研修開催
（3）チャレンジ・ディビジョンへの若手レフェリーの登用と指導
7)《スケジュール部》日本リーグの活性化を図りつつ代表活動との連携
（1）各チームの運営経費軽減を重視したスケジュール
（2）活性化及び集客に結びつく日程調整
（3）計画的な全国各地への開催（開催地の拡大）
（4）男女ペアカードを公募できる調整
（5）計画的なスケジュール調整の実施
8)《普及部》リーグ加盟の全チームのジュニアチーム設立と社会貢献と地域密着した活動の実施。
（1）ジュニアチーム活性化のための相互情報交換
（2）ジュニアリーグ開催における日本リーグの経費負担軽減策検討
（3）開催場所の計画立案（ローテーションや全国公募等）
（4）東西リーグチーム分けの再編
9)《記録部》PCスコアの運用が各会場でスムーズに扱えるように改善して、正確で迅速な情報発信を行う
（1）PCスコアのスムーズな運用
（2）記録データの管理、活用して逐次情報発信ができるように整備する
（3）記録集（35回～40回まで）の作成

13.『がんばれ20万人会』サポート会員に関する事業

【基本方針】
「ハンドボール界総力をあげての日本代表応援」、「ハンドボールのバリューアップ」という本来の目的を踏まえ、サポート会員の拡大、拡充を図ると共に、各連盟、各都道府県協会との連携を図り、20万人を目指す。
前年度比較でサポート会員数10％アップを目指す。

【実施計画】
1）各連盟、各都道府県協会との連携強化による会員加入促進
2）主催大会にてサポート会員入会案内活動を実施する
3）会員への情報、サービスの拡充
4）会則、諸条件の見直し・充実

14. 東京オリンピック・パラリンピックプロジェクト

【基本方針】
2020東京オリンピックの大会ビジョン「スポーツには世界と未来を変える力がある」と３つの基本コンセプト「全員が自己ベスト」「多様性と調和」「未来への継承」をハンドボール競技にも確りと落とし込み、東京オリンピック組織委員会と協働で大会を運営する。

【実施計画】
1）スポーツマネージャーを東京五輪組織委員会に配置する。
2）東京五輪組織委員会の推進計画にもとづき、プロジェクトを編成し実稼働に入る。
3）オリンピックムーブメントの推進（アンチドーピングや代表選手による施設訪問や学校訪問など）
4）東京都ハンドボール協会・関東学生ハンドボール連盟との意見交換を実施する。

15. 2019女子世界選手権プロジェクト

【基本方針】
1）日本協会に担当常務理事と特任理事を置く。
2）2019女子ハンドボール世界選手権組織委員会と協働で推進する。

【実施計画】
1）大会基本計画の策定を行う。
2）試合会場の決定
3）実施計画作成の準備（施設整備、予算等）を行う。

16. ガバナンス室

【基本方針】
1）各部門事業計画が「日本のハンドボールを強くする」に向かっていることを検証する。（年度開始時）
2）各部門事業計画が2020年ならびに2020年の後をめざした内容であることを検証し、進捗の公表を推進する。
3）各部門事業計画が月別展開されていることを検証し、四半期ごとに計画対実績の比較検討・原因分析を実施する。（6・9・12・3月）
4)年度途中に各部門事業計画の追加施策を検討し、年度末計画達成を支援する。（6・9・12・3月）

【実施計画】
1）各部門事業計画が月別あるいは４半期展開されていることを年度開始までに確認。
2）6月、9月、12月、3月各上旬に、各四半期の２ヶ月実績＋１ヶ月見通しを記載し、提出していただく。そのうえで、各項目の進捗状況を把握し、常務理事会にて必要な追加対策の有無を検討。
3）１年をとおし各部門メンバーとの意見交換の実施。
4）ガバナンス室がリーダーとなってチームを編成しメディア発表ならびにファン（20万人会を含む）向けの「2020年（一部2019年）に向けたロードマップ」を2016年８月（リオオリンピック終了時まで）に作成。リオオリンピック終了後間髪をいれず、メディアに発表。
5）都道府県協会（以下県協会）を訪問し意見交換の実施。県別課題（含む挑戦課題）を伺い、2016年度即実施課題と2017年度実施課題を整理。訪問県協会は①中学生クラブチームのある県、②20万人会員数の多い県を優先し、（2016年8月から2017年12月）訪問県協会数（計画）20県
6）業務遂行、契約書類の作成保管について確認。監査業務と協力し課題解決を担当する。

平成28年（2016年）度　国内・国際大会日程

	大会名	開催日程（競技日）	開催地	備考（開催場所等）
4月	※ IHF オリンピック男子世界最終予選	4月7日(木)－4月10日(日)	未定	不参加
	※第13回東アジアクラブ選手権（男・女）	4月17日(日)－4月19日(火)	韓国・ソウル	日本リーグ男女優勝チーム
	※東アジア連盟総会	4月19日(火)	韓国・ソウル	
5月				
6月	※第4回 U-22 東アジア選手権（男・女）	未定	未定	男女 U-22
	※第20回日韓スポーツ交流（派遣/女子）	未定	未定	女子 U-16
	日体協公認コーチ養成講習会（専門科目）	6月24日(金)－6月27日(月)	東京都・北区	味の素ナショナルトレーニングセンター
	※日韓定期戦 2016	6月25日(土)案	韓国・ソウル	男女代表
	※第23回世界学生選手権	6月27日(月)－7月3日(日)	スペイン・マラガ	男女学生
7月	※女子ジュニア世界選手権	7月3日(日)－7月17日(日)	ロシア	女子 U-20
	西日本学生選手権大会	7月8日(金)　7月10日(日)	大阪府・堺市	金岡公園体育館、家原大池体育館、原池公園体育館
	第36回全国クラブ選手権大会・西地区大会	7月9日(土)－7月10日(日)	大分県・大分市	県立総合体育館、コンパルホール、大分舞鶴高校、大分鶴崎高校
	第36回全国クラブ選手権大会・東地区大会	7月9日(土)－7月10日(日)	北海道函館市	函館アリーナ、函館大学体育館
	第36回全国クラブ選手権大会・中地区大会	7月9日(土)－7月10日(日)	兵庫県・加古川市	加古川市立総合体育館、他。
	※女子ユース世界選手権	7月21日(木)－8月3日(水)	スロバキア	女子 U-18
	※第21回ヒロシマ国際大会	7月22日(金)－7月24日(日)	広島市	男女代表
	※第15回男子ジュニアアジア選手権	7月22日(金)－7月31日(日)	ヨルダン・アンマン	男子 U-21
	第29回全国小学生大会	7月29日(金)－7月31日(日)	京都府・京田辺市	京田辺市田辺中央体育館他
8月	高松宮記念杯第67回全日本高校選手権大会	8月2日(火)－8月7日(日)	山口県・周南市、光市、下松市	キリンビバレッジ周南総合スポーツセンター、周南市鹿野総合体育館、光市総合体育館、下松スポーツ公園体育館
	第19回ハンドボール研究集会			
	※リオデジャネイロオリンピックハンドボール競技	8月5日(金)－8月21日(日)	ブラジル・リオデジャネイロ	女子代表
	第21回ジャパンオープントーナメント・愛媛国体リハーサル大会	8月6日(土)－8月9日(火)	愛媛県・松山市、西条市	松山市総合コミュニティセンター体育館、北条スポーツセンター体育館、西条市総合体育館、ビバ・スポルティア SAIJO
	東日本学生選手権大会	8月9日(火)－8月11日(木)	岩手県花巻市	富士大学スポーツセンター、花巻市総合体育館
	第43回全国高等専門学校選手権大会	8月16日(火)-8月18日(木)	石川県・金沢市	いしかわ総合スポーツセンター
	※第8回日韓小学生親善交流（派遣）	8月19日(金)－8月22日(月)	韓国・河南市（予定）	男女小学生
	第24回全日本マスターズ大会	8月20日(土)－8月21日(日)	愛知県・豊橋市	豊橋市総合体育館他
	第45回全国中学校大会	8月21日(日)－8月24日(水)	石川県・金沢市	いしかわ総合スポーツセンター
	第18回全日本ビーチハンドボール選手権大会	8月27日(土)－8月28日(日)	兵庫県・神戸市	神戸アジュール舞子浜
	※第24回日韓中ジュニア交流大会	8月23日(火)－8月29日(月)	中国・浙江省寧波市	男女高校生
	※日韓スポーツ交流（派遣/男子）	未定	未定	男子 U-16
	※第7回男子ユースアジア選手権	8月27日(土)－9月7日(水)	バーレーン	男子 U-19
	高松宮記念杯第6回全日本社会人選手権	8月31日(水)－9月4日(日)	山形県・東根市	東根市民体育館
	NTS ブロックトレーニング	8月上旬－	各ブロック	各ブロック
9月	第41回日本リーグ	9月10日(土)－	各地	各地
	※日韓スポーツ交流（受入/男子）	未定	未定	男子 U-16
	第5回アジアビーチゲームズ	9月24日(土)－10月3日(月)	ベトナム・ニャチャン	男女ビーチ代表
	※第19回日韓スポーツ交流（受入/女子）	未定	未定	女子 U-16
10月	第71回国民体育大会	10月6日(木)－10月10日(月)	岩手県・花巻市	花巻市総合体育館、花巻市民体育館、富士大学スポーツセンター
11月	第14回日本車椅子競技大会	11月12日(土)－11月13日(日)	宮城県・仙台市	仙台市泉総合運動場体育館
	高松宮記念杯男子59回女子52回全日本学生選手権	11月19日(土)－11月23日(水)	徳島県・鳴門市，北島町、松茂町	アスティとくしま、アミノバリューホール、北島町北公園総合体育館、松茂町総合体育館
12月	※第16回女子アジア選手権	12月10日(土)－12月20日(火)	未定	女子代表
	第68回日本選手権大会	12月20日(火)－12月25日(日)	東京都・八王子市、世田谷区	エスフォルタアリーナ八王子、駒沢体育館（予定）
	第25回 JOC ジュニアオリンピックカップ	12月23日(金)－12月27日(火)	沖縄県・浦添市、八重瀬町、豊見城市	浦添市民体育館、八重瀬町東風平体育館、豊見城市体育館
1月	NTS センタートレーニング（高校生）			
	NTS センタートレーニング（中学生）			
	※男子世界選手権	1月15日(日)－1月29日(日)	フランス・リール、パリ、モンペリエ、ルーアン、ナント、ネッス	男子代表
2月	全日本社会人チャレンジ 2017	2月10日(金)－2月12日(日)	和歌山県・和歌山市	和歌山ビッグホエール
	トップコーチセミナー	2月18日(土)－2月19日(日)	東京都・北区	味の素ナショナルトレーニングセンター
	日体協公認コーチ資格免除適応コース（認定大学）中央検定	2月18日(土)－2月20日(月)	東京都・北区	味の素ナショナルトレーニングセンター
3月	第41回日本リーグプレーオフ	3月18日(土)－3月19日(日)	東京都・世田谷区（予定）	駒沢体育館（予定）
	コーチレフェリーシンポジウム	3月18日(土)－3月19日(日)	東京都・世田谷区（予定）	駒澤大学（予定）
	第40回全国高校選抜大会	3月24日(金)－3月29日(水)	兵庫県・神戸市、加古川市、高砂市	グリーンアリーナ神戸、神戸市立中央体育館、神戸国際大学附属高校体育館、加古川市立総合体育館、高砂市総合体育館
	第12回春の全国中学生選手権大会	3月25日(土)－3月29日(水)	富山県・氷見市	氷見市ふれあいスポーツセンター他

2016.02.13 現在　※は国際大会

平成27年度　チーム数・選手数一覧表

2016年2月末

	都道府県	一般L		一般A		リージョナル		大学		高専		高校		中学校		中学少年団		小学校		小学少年団		合計	
		チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数
1	北海道	0	0	12	218	4	56	40	636	3	73	59	1267	16	298	5	21	4	50	10	120	153	2739
2	青森県	0	0	7	137	0	0	6	95	1	12	17	391	4	38	1	2	0	0	0	0	36	675
3	岩手県	0	0	15	233	12	159	5	94	1	19	37	750	32	766	0	0	4	30	6	154	112	2205
4	宮城県	1	16	2	24	0	0	10	211	2	45	41	1100	21	460	0	0	2	27	4	42	83	1925
5	秋田県	0	0	7	98	0	0	3	59	1	23	10	230	7	107	0	0	0	0	2	26	30	543
6	山形県	0	0	4	84	1	10	2	40	1	19	20	475	5	62	0	0	0	0	3	45	36	735
7	福島県	0	0	6	82	0	0	3	26	0	0	43	861	29	670	0	0	9	146	2	26	92	1811
8	茨城県	0	0	6	93	7	91	4	73	0	0	59	1129	36	711	0	0	7	119	9	99	128	2315
9	栃木県	0	0	4	72	1	3	1	15	0	0	15	319	14	311	0	0	6	69	4	28	45	817
10	群馬県	0	0	9	131	1	13	3	64	0	0	20	431	16	288	1	8	6	67	0	0	56	1002
11	埼玉県	1	22	11	186	0	0	9	179	0	0	94	2269	59	1234	0	0	9	118	6	80	189	4088
12	千葉県	0	0	8	168	4	58	8	182	0	0	61	1378	35	650	1	14	13	110	8	53	138	2613
13	東京都	0	0	28	555	52	855	55	1228	2	34	149	3378	85	806	0	0	8	88	4	41	383	6985
14	神奈川県	0	0	9	148	7	109	17	418	0	0	156	3103	107	2156	0	0	8	126	5	41	309	6101
15	山梨県	0	0	6	105	8	106	4	37	0	0	25	468	12	212	0	0	4	53	1	6	60	987
16	長野県	0	0	4	70	0	0	5	69	0	0	32	566	12	244	0	0	0	0	0	0	53	949
17	新潟県	0	0	5	74	1	7	6	98	1	12	11	272	1	14	0	0	1	12	0	0	26	489
18	富山県	0	0	6	85	5	61	4	66	1	14	20	408	39	725	0	0	15	189	5	47	95	1595
19	石川県	1	17	7	123	3	52	9	144	2	57	23	507	24	532	0	0	4	62	0	0	73	1494
20	福井県	1	18	5	67	2	10	4	58	1	27	15	330	13	277	0	0	5	49	0	0	46	836
21	静岡県	0	0	10	143	1	21	4	57	2	28	42	1146	6	143	0	0	0	0	0	0	65	1538
22	愛知県	4	85	14	262	28	214	35	700	1	26	248	6458	194	4778	6	6	13	152	14	133	557	12814
23	三重県	1	17	6	95	1	20	4	54	1	19	40	900	30	626	1	0	6	67	6	67	96	1865
24	岐阜県	1	21	6	109	1	6	6	124	1	29	48	1154	52	1200	4	40	10	155	6	71	135	2909
25	滋賀県	0	0	4	67	0	0	4	62	0	0	21	497	14	308	0	0	1	20	0	0	44	954
26	京都府	0	0	4	57	8	100	21	284	1	15	34	731	31	591	0	0	18	359	2	0	119	2137
27	大阪府	0	0	7	124	0	0	28	602	1	22	110	2757	64	1116	3	22	5	45	7	95	225	4783
28	兵庫県	0	0	8	137	8	117	12	251	1	17	90	1803	30	633	0	0	7	86	2	22	158	3066
29	奈良県	0	0	5	88	0	0	7	109	1	23	26	496	16	289	0	0	6	86	0	0	61	1091
30	和歌山県	0	0	5	54	11	126	2	34	1	23	18	324	12	147	0	0	6	36	1	18	56	762
31	鳥取県	0	0	3	50	0	0	1	12	1	35	16	289	7	109	0	0	2	23	0	0	30	518
32	島根県	0	0	3	28	0	0	1	13	1	29	11	191	[illegible]	24	0	0	0	0	0	0	20	285
33	岡山県	0	0	11	181	10	126	10	135	1	23	49	1121	18	314	2	28	0	0	14	210	115	2138
34	広島県	2	38	5	88	0	0	7	132	1	[illegible]	21	401	10	110	0	0	[illegible]	39	0	0	50	817
35	山口県	0	0	[illegible]	119	[illegible]	54	2	39	2	49	27	677	21	399	0	0	10	167	1	17	76	1521
36	香川県	0	0	[illegible]	65	1	15	3	59	1	26	21	443	19	422	1	8	[illegible]	27	8	85	60	1150
37	徳島県	0	0	2	31	0	0	5	58	1	28	13	295	5	83	0	0	0	0	0	0	26	495
38	愛媛県	0	0	7	145	1	20	5	94	0	0	30	736	6	132	2	29	[illegible]	36	2	27	57	1219
39	高知県	0	0	[illegible]	61	2	34	3	29	1	14	15	190	[illegible]	174	0	0	2	52	2	10	38	564
40	福岡県	0	0	8	87	0	0	15	289	[illegible]	98	59	1375	31	455	0	0	5	46	[illegible]	46	124	2396
41	佐賀県	1	19	[illegible]	54	0	0	2	38	0	0	13	256	[illegible]	66	1	[illegible]	2	25	0	0	32	465
42	長崎県	0	0	[illegible]	55	1	16	2	27	1	28	29	595	14	235	2	25	[illegible]	54	2	14	58	1049
43	熊本県	1	23	[illegible]	69	0	0	[illegible]	81	2	44	52	1174	29	537	0	0	15	336	[illegible]	61	111	2325
44	大分県	0	0	3	50	8	72	2	29	0	0	12	242	14	199	0	0	5	68	8	57	50	717
45	宮崎県	0	0	4	67	2	12	2	44	1	22	33	727	20	309	0	0	6	68	7	72	75	1321
46	鹿児島県	1	16	3	51	1	12	4	61	1	15	31	565	15	280	2	5	10	117	0	0	68	1122
47	沖縄県	1	21	9	157	23	323	8	115	2	35	76	1721	71	1740	0	0	28	423	8	94	226	4629
合計		16	313	314	5247	217	2878	397	7322	46	992	2092	46896	1318	25980	32	217	278	3802	165	1907	4875	95554

医療施設や介護施設、スポーツ分野など あらゆるシーンに対応した伊藤超短波の物理療法機器

コンビネーション刺激装置

「超音波」と「電気刺激」の
2つの効果を生み出す
コンビネーション治療器。





ULTRASOUND　HI-VOLTAGE　MCR

小型電気刺激装置

「TENS」・「EMS」・「MCR」を
搭載し、場所を選ばず治療が
できる小型電気刺激装置。





TENS　EMS　MCR

小型超音波治療器

スポーツの現場の声から生まれた
片手での操作が可能な
携帯できる小型超音波治療器。



防水機能
搭載



ULTRASOUND

小型マイクロカレント治療器

いつでもどこでもセルフケアが
できる超軽量でコンパクトな
マイクロカレント治療器。





MCR

ULTRASOUND
[超音波療法]
ミクロマッサージ効果と温熱効果により、疼痛の緩解や筋肉痛、関節痛を軽減します。損傷を受けた筋や靭帯の治療や関節可動域の改善に効果的です。

HI-VOLTAGE
[高電圧電気刺激療法]
高電圧の刺激を加え、深部にアプローチします。疼痛の軽減、筋緊張や可動域の改善に対し、即効性が期待できます。

MCR
[マイクロカレント療法]
微弱な電流を流すことで、組織損傷の治癒を促進します。神経や筋を興奮させないためトレーニング後のクールダウンに最適です。

EMS
[神経筋電気刺激療法]
骨格筋および運動神経に電気刺激を加えて筋の収縮を引き起こし、筋力を強化します。筋萎縮の改善や筋力トレーニングなどに使用します。

TENS
[経皮的電気刺激療法]
疼痛の軽減を目的として、主に知覚神経に対し電気刺激を加える療法です。

測定装置

ヘモグロビン測定装置
ASTRIM FIT

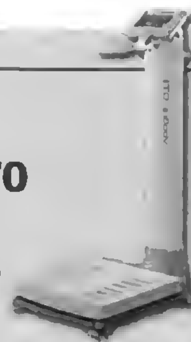
採血せずに約40秒でヘモグロビン
推定値をスピード測定。
リアルタイムでコンディションを
把握できます。



メーカー希望小売価格 398,000円(税別)
※医療機器ではありません。

体成分分析装置
ITO-InBody370

体の4大構成成分や骨格筋、脂肪、
部位別の筋肉バランスを高精度に測定。
整形・リハビリの指導や評価指標に
活用できます。



メーカー希望小売価格 948,000円(税別)
※医療機器ではありません。

2016年度競技規則変更の概要

2016年2月13日
（公財）日本ハンドボール協会競技運営委員会　審判委員会

2015年に開催された、男子U-19およびU-21世界選手権において競技規則変更の部分試行が行われた。その結果を踏まえ、11月6日ロシア・ソチにてIHFの会議が開催され、12月女子世界選手権における試行事項を下記のように決定した。結果的には競技規則の変更は採用されなかったが、同様のIHFからの通達には、2016年7月1日より正式に競技規則を変更する方向が明記されていた。

これを踏まえ、（公財）日本ハンドボール協会競技運営委員会および審判委員会では、国際スケジュールに合わせ、2016年7月1日より競技規則を下記の通り変更する。各ブロックおよび都道府県においては7月1日の完全移行に合わせて試行していく。

以下に変更点の概要について記載する。2016年版の正式な競技規則書はIHFからの通知（3月末予定）があり次第発行する予定である。

競技規則変更の概要

1　ゴールキーパーとコートプレーヤーの交代

①コート上にコートプレーヤーが同時に7名いることが許される。この場合、ゴールキーパーと交代するコートプレーヤーはゴールキーパーのユニフォームと同色にする必要はない。

②コート上に7名のコートプレーヤーがいる場合、誰もゴールキーパーの役割を担うことはできない。つまり、誰もゴールエリアに入りプレーすることが許されない。インプレー中にコートプレーヤーがゴールエリアに侵入し、明らかな得点チャンスを妨害した場合は8：7（f）を適用し、7mスローを与える。

③競技規則4：4から4：7に示す、これまで通りの通常の交代も許される。この場合、ゴールキーパーは存在し、チームは競技規則第5条（ゴールキーパー）および第6条（ゴールエリア）に示す権利を有する。

④コートプレーヤーが7名の状況で、そのチームにゴールキーパースローが与えられた場合は、そのうちの1名がゴールキーパーと交代し、ゴールキーパースローを行わなければならない。この場合レフェリーは、必要と判断すればタイムアウトを取ることができる。

2　選手が負傷した場合

競技規則4：11第1段落に関して、選手が負傷した場合は以下の要領で対処する。試合を円滑に進めるため、コート上での治療行為の時間を可能な限り減らすことを目的とする。

〈レフェリーに対して〉

○明らかにコート上での治療行為が必要であるとレフェリーが判断したならば、レフェリーはゼスチャー15（タイムアウト）、16（入場許可）を即座に示す。この場合、チーム役員はこの指示に従わなければならず、拒否することはできない。

○それ以外の場合、レフェリーはゼスチャー16を示す前に、プレーヤーに対して、「プレーを続けますか？」と問いかける。続けられないと答えた場合、レフェリーはゼスチャー16を示し、入場許可をする。

○プレーヤーやチーム役員がこの指示に従わなかった場合は、スポーツマンシップに反する行為として罰せられる。

〈第1段落を、以下の通り改める〉

○コート上で治療行為を受けたプレーヤーはコート外へ出なければならない。

○そのプレーヤーが再びコートへ戻れるのは、そのチームがその後3回の攻撃を終了させてからとなる。TDがこの状況に関して観察の責任を負う。

○１回の攻撃は、そのチームがボールを所持してから始まり、得点をするかボールの所持を失った時点で終了となる。
○ボールを所持している時点で、そのチームの選手に治療行為を行った場合は、１回目の攻撃はその後の再開の笛から始まる。
○３回の攻撃が完了しないうちに、そのプレーヤーがコートへ入った場合は、不正交代となる。
○段階的罰則の適用を受けた相手チームの違反行為の結果、コート上で治療行為をすることとなった場合は、上記の状況とは異なる。
○ゴールキーパーの頭部にボールがあたり、コート上で治療行為が必要となった場合も、上記の状況とは異なる。

3　パッシブプレー

〈競技規則条文〉

競技規則７：11、７：12はそのまま
競技規則解釈４のＡ、Ｂ、Ｃ、およびＥはそのまま

〈競技規則解釈 4D を以下の通り改める〉

○レフェリーは予告合図を出した後、狙いを定めた攻撃活動を認知できない場合はいつでもパッシブプレーの判定をすることができる。
○予告合図のあと、攻撃側チームは最大６回まで、パスやシュートの機会が与えられる。（あくまで最大であり、６回になる前に判定をされることもあり得る）
○６回のパスの後、ゴールへのシュートがなかった場合、どちらか一方のレフェリーがパッシブプレーの判定をする（相手チームのフリースローとなる）。
○途中攻撃側のチームにフリースローが与えられた場合でも、パスの回数は継続される。
○攻撃側のシュートが防御側プレーヤーにブロックされた場合でも、パスの回数は継続される。
○６回のパスの後、レフェリーがパッシブプレーの判定をする前に、防御側プレーヤーが違反をした場合は攻撃側にフリースローが与えられる。この場合、攻撃側には、直接シュートを打つことに加え、攻撃を完了するため、フリースローから直接シュートを打つことを含め、さらに１回のスローをすることが許される。
○パスの回数は、競技規則17：11により、レフェリーの事実判定となる。予告合図の後、スローの回数を数えるなどの行為はないようにする（８：７（a）（b））。

4　終了間際

〈確認〉

○「終了間際」を競技終了30秒以内と特に定める。
○この「終了間際」は、正規の競技時間に加え、延長戦にも適用する。
〈競技規則８：5、８：6、８：10（c）および（d）を以下に調整する〉
（1）「終了間際」とは「競技終了30秒前」のことである。
（2）競技規則８：10（c）に示される違反行為については、報告書を伴わない失格とする。また、相手に７ｍスローを与えなければならない。
（3）競技規則８：10（d）に該当する競技規則８：５の違反行為については、報告書を伴わない失格とする。また、相手チームに７ｍスローを与える。
（4）競技規則８：10（d）に該当する競技規則８：６の違反行為については、報告書を伴う失格とする。また、相手チームに７ｍスローを与える。
（5）上記の（3）および（4）については以下の点も踏まえる
①攻撃側プレーヤーが得点したならば、７ｍスローを与える必要はない。
②攻撃側プレーヤーがパスをしたが、その後得点につなげることができなかった場合は、７ｍスローを与える。
③攻撃側プレーヤーがパスをし、その後得点になったならば、７ｍスローを与える必要はない。

5　ブルーカード

〈競技規則16：8（８：６および８：10に関連して）の最終段落を以下の通り改める〉
○報告書を伴う失格であるとレフェリーが判断したならば（レッドカードに加え）ブルーカードを示す。
○ブルーカードはレフェリーが持っておく（つまり３枚のカードを持ち備える）
○レフェリーはレッドカードを示した後、ペアで短時間の相談の後、必要であればブルーカードを示す。

2016年度Ｊクイックハンドボール（U-12ゲーム様式）に対応した競技規則改訂について

平成28年2月15日
（公財）日本ハンドボール協会　普及指導本部長　三輪 一義
小学生専門委員長　竹内 貞明

日頃より、小学生ハンドボールの指導・普及にご尽力賜り厚く御礼申し上げます。

2015年度より実施しましたＪクイックハンドボールでは、皆様のご理解とご協力により大きなトラブルもなく運用されていると感じております。改めて感謝申し上げます。

全国小学生大会におけるゲーム様相について、筑波大学ハンドボール研究室と共同してＪクイックハンドボールの検証を3年間継続して行う計画です。加えて、競技規則についても、小学生専門委員会および競技規則研究専門委員会を中心に、現場の指導者の意見を反映させ、U-12ゲーム様式の趣旨がより生かされるべく、改善を図ってまいります。

2年目を迎えるＪクイックハンドボールをより現場に適合したものにするために、2016競技規則改訂に合わせて、U-12ゲーム様式に関わる規則についても若干の改訂を実施することといたしました。

改訂は平成28年4月1日付けで施行されるものですが、混乱が生じないように年度末のこのタイミングで事前案内をさせていただいております。Ｊクイックハンドボールの趣旨を深くご理解いただき、今回の改訂についてご協力いただきますようよろしくお願い申し上げます。

〈Ｊクイックハンドボール競技規則改訂及びQ&Aついては以下を参照〉

【改訂内容の要点】

- 各セット（延長戦を含む）の開始時、スローオフはコート中央から行う。
- 得点の後のGKスローは、ゴールエリア内であればどこから投げてもよい。
- 得点の後、レフリーの笛の合図のあとに、ゴールエリア内からGKスローを行って競技を再開する。

2016年度Ｊクイックハンドボール（U-12ゲーム様式）に対応した競技規則改訂について

2016年1月31日　（公財）日本ハンドボール協会審判委員会

平成27年度よりＪクイックハンドボールが実施され、競技規則も「Ｊクイックハンドボール競技規則」として定められた。1年間の実施を受け、小学生委員会より競技規則の一部改訂が提案された。（公財）日本ハンドボール協会審判委員会では、提案の内容を受け、小学生委員会と協議の結果、下記の通り競技規則条文を定めた。

「競技規則書2016年版」（平成28年発行予定）における各条文の下に、小学生（U-12）用として〈2016年度Ｊクイックハンドボール〉という見出しをつけて、競技規則条文を掲載する。条文は2015年度のものを使用している。

2016年度Ｊクイックハンドボール競技規則改定の概要

第1条　コート

1の7　ゴールキーパーライン（4ｍライン）は、ゴールの正面に引いた長さ15㎝の直線である。ゴールラインから（ゴールラインの後端から4ｍラインの前端まで測って）4ｍ離れたところに、ゴールラインと平行に引く（図1を参照）。

〈2015年度Ｊクイックハンドボール〉

1の7　ゴールキーパーライン（4ｍライン）は、ゴールの正面に引いた長さ**50㎝**の直線である。ゴールラ

インから（ゴールラインの後端から 4m ラインの前端まで測って）4m 離れたところに、ゴールラインと平行に引く（図 1 を参照）

〈2016 年度 J クイックハンドボール〉

この条文をなくす。つまり、ゴールキーパーライン（4m ライン）は 15 ㎝となる。

第 2 条　競技時間タイムアウト

2 の 1　成年・高校生のチームの競技時間はすべて、前後半各 30 分が標準である。休憩時間は 10 分が標準である。

中学生の標準の競技時間は前後半各25分である。休憩時間は 10 分が標準である。

小学生の標準の競技時間は「J クイックハンドボール」のそれを標準とする。休憩時間は 5 分が標準である。「J クイックハンドボール」を実施する際は、下記の通り行うものとする。

【注】IHF 大会、大陸連盟大会または国内大会において、主催者の権限でハーフタイムの時間を決定できる。しかし、ハーフタイムの最長時間は 15 分までとする。

〈2015 年度 J クイックハンドボール〉

2 の 1　J クイックハンドボールを実施する場合は、競技時間を次のように定める。

- 競技は 3 セット制で行い、競技時間はそれぞれ 10 分である。
- 休憩時間は 5 分が標準である。
- 延長戦については競技規則 2：2 に則り、前・後半で行う。
- 各セットで、「セット回数表示板」をオフィシャル席中央に掲示する。「セット回数表示板」は A4 規格のサイズで、1 から 3 の数字を明確に記入する。

〈2016 年度 J クイックハンドボール〉

※ 2015 年度と同様

2 の 10　各チームは、正規の競技時間中の前半と後半に各 1 回ずつ、1 分間のチームタイムアウトを取る権利がある。しかし、延長戦ではチームタイムアウトを取ることができない（競技規則解釈 3）。

【注】IHF 大会、大陸連盟大会、または国内大会において、主催者の権限で 1 分間のチームタイムアウトの申告回数を決定できる。しかし、その回数は最高 3 回までであり、かつ前半、後半（延長戦は除いて）それぞれにおいて最高 2 回までとする（競技規則解釈 3 を参照）

〈2015 年度 J クイックハンドボール〉

2 の 10　各チームは、正規の競技時間中に 1 回のみ、1 分間のチームタイムアウトを取る権利がある。しかし、延長戦ではチームタイムアウトを取ることができない（競技規則解釈 3）。

〈2016 年度 J クイックハンドボール〉

※ 2015 年版と同様

第 9 条　得点

9 の 2　レフェリーが次に行うスローオフの笛を吹いたならば、与えられた得点を取り消すことはできない（ただし、2：9【注】を参照）。

得点後のスローオフの実施までに、前後半の終了合図があった場合は、（スローオフを行わなくても）得点を与えたことを明示しなければならない。

〈2016 年度 J クイックハンドボール〉（新設）

9の2　得点のあと、レフェリーが次に行うゴールキーパースローの笛を吹いたならば、与えられた得点を取り消すことはできない（ただし、2：9【注】を参照）。

得点後のゴールキーパースローの実施までに、前後半の終了合図があった場合は、（ゴールキーパースローを行わなくても）得点を与えたことを明示しなければならない。

第 10 条　スローオフ

10 の 1　競技の開始にあたり、コイントスに勝ちボールを選択したチームがスローオフを行う。そして相手はサイドの選択権を得る。また、コイントスに勝ったチームがサイドの選択権を望んだ場合は、相手がスローオフを行うことになる。

競技の後半に両チームはサイドを交代する。競技の開始時にスローオフを行わなかったチームが、後半の開始のスローオフを行う。

各延長戦の前には改めてコイントスを行い、上記 10：1 の条項を延長戦にも適用する。

〈2015 年度 J クイックハンドボール〉

10 の 1　競技の開始にあたり、コイントスに勝ちボールを選択したチームがスローオフを行う。そして相手はサイドの選択権を得る。また、コイントスに勝ったチームがサイドの選択権を望んだ場合は、相手がスローオフを行うことになる。

各セットが終了するごとに、両チームはサイドを交代する。開始のスローオフも交互に行う。

各延長戦の前には改めてコイントスを行い、競技規則 2：2 の条項を延長戦に適用する。

〈2016 年度 J クイックハンドボール〉

※ 2015 年度と同様

10の2　得点の後は、得点をされたチームのスローオフによって競技を再開する（ただし、9：2の第2段落を参照）。

〈2016年度Jクイックハンドボール〉（新設）

10の2　得点の後は、得点をされたチームのゴールキーパーが、レフェリーの笛の後にゴールキーパースローを行うことによって競技を再開する（ただし、9：2の2段落を参照）。

10の3　（左右に約1.5mを許容範囲として）コートの中央からどの方向へもスローオフを行ってもよい。笛の合図から3秒以内にスローオフを行わなければならない（13：1a、15：7の第3段落）。スローオフを行うプレーヤーは、少なくとも片足をセンターライン上に、そして他方の足をセンターライン上または自陣側（15：6）に置き、さらにボールを手から離すまでその位置にいなければならない（13：1a、15：7の第3段落、競技規則解釈5を参照）。

スローを行うプレーヤーの味方のプレーヤーは、笛の合図よりも前にセンターラインを踏み越えてはならない（15：6）。

〈2015年度Jクイックハンドボール〉

10の3　スローオフは得点されたチームのゴールキーパーによって、ボールがゴールエリアラインを越えるようにスローされなければならない。笛の合図から3秒以内にスローオフを行わなければならない（13：1a、15：7の第3段落）。

スローオフを行うゴールキーパーは、少なくとも片足をゴールキーパーライン上に置き、さらにボールを手から離すまでその位置にいなければならない（13:1a、15:7の第3段落、競技規則解釈5を参照）。

ゴールキーパーの投げたボールがゴールエリアラインを完全に通過したとき、スローオフを行ったと見なす（ゴールキーパースローと同じ）。

〈2016年度Jクイックハンドボール〉

10の3　（延長戦も含めて）各セットの開始のスローオフはコートの中央から行う。

得点の後、得点されたチームのゴールキーパーは、ボールがゴールエリアラインを越えるようにゴールキーパースローを行わなければならない。笛の合図から3秒以内にスローを行わなければならない（13:1a、15:7の第3段落）。ゴールキーパースローを行うゴールキーパーは、ゴールエリア内のどこからでもレフェリーの笛の後にスローを行うことができる。

ゴールキーパーの投げたボールがゴールエリアラインを完全に通過したとき、ゴールキーパースローを行ったと見なす。

10の4　（延長戦も含めて）前後半の開始時のスローオフに際して、すべてのプレーヤーは自陣のサイドにいなければならない。

しかし、得点の後のスローオフに際しては、スローオフを行うチームの相手プレーヤーはコートのどちらのサイドにいてもよい。

しかしどちらの場合も、スローオフを行うチームの相手プレーヤーは、スローオフを行うプレーヤーから3m以上離れていなければならない（15：4、15：9、8：7c）。

〈2015年度Jクイックハンドボール〉

10の4　（延長戦も含めて）各セット開始時のスローオフに際して、すべてのコートプレーヤーは自陣を問わず、プレーイングエリアのどの位置にいてもよい。

これは、得点の後のスローオフに際しても同様に扱う。

しかしどちらの場合も、スローオフを行うチームの相手プレーヤーは、ゴールキーパーラインから3m以上離れていなければならない（15:4、15:9、8：7c）。

〈2016年度Jクイックハンドボール〉

10の4　**(延長戦も含めて)各セット開始時のスローオフに際して、すべてのプレーヤーは自陣のサイドにいなければならない。**この場合、**スローオフを行うチームの相手プレーヤーは、スローを行うプレーヤーから3m以上離れていなければならない。**(15：4、15：9、8：7c)

第12条　ゴールキーパースロー

12の2　ゴールキーパーは、レフェリーの笛の合図なしで(ただし、15：5bを参照)、ボールがゴールエリアラインを越えるようにゴールエリアからゴールキーパースローを行う。

ゴールキーパーの投げたボールがゴールエリアラインを完全に通過したとき、ゴールキーパースローを行ったと見なす。

相手チームのプレーヤーはゴールエリアラインのすぐ外にいてもよいが、ボールがゴールエリアラインを通過するまで、ボールに触れることはできない(15：4、15：9、競技規則解釈8：7c)。

〈2016年度Jクイックハンドボール〉(新設)

12の2　ゴールキーパーは、レフェリーの笛の合図なしで(ただし、15：5bを参照)、ボールがゴールエリアラインを越えるようにゴールエリアからゴールキーパースローを行う。**ただし、得点された後のゴールキーパースローはレフェリーの笛の合図の後に行わなければならない。**

ゴールキーパーの投げたボールがゴールエリアラインを完全に通過したとき、ゴールキーパースローを行ったと見なす。

相手チームのプレーヤーはゴールエリアラインのすぐ外にいてもよいが、ボールがゴールエリアラインを通過するまで、ボールに触れることはできない(15：4、15：9、競技規則解釈8：7c)。

2016年度Jクイックハンドボール(U-12ゲーム様式)に対応した競技規則改訂　Q & Aについて

Q1. 得点の後のGKスローと通常のGKスローは同じと考えて良いですか？

A1. はい、スローについては同じと考えてください。
ただし、得点の後のGKスローについては、レフリーの笛の合図のあと、3秒以内にスローを完了してください。

Q2. 得点の後、GKスローの笛を吹くタイミングを教えてください。

A2. GKがゴールエリア内でボールを手にした時点(スローができる態勢)でGKスローの笛を吹きます。

Q3. 得点の後、レフリーの笛の合図のあと、3秒以内にスローを完了出来ない場合はどうなりますか？

A3. 相手チームにフリースローが与えられます。

Q4. 得点の後に、GKが3秒以内にスローを完了しなかった場合、相手チームにフリースローが与えられますが、その際のポイントはどこになりますか？

A4. レフリーが笛を吹いたときに、GKがボールを保持していた位置と、ゴールからの延長線上にある最短の9mラインからになります。

Q5. 得点の後、ボールがゴールの中にある場合、そのままの位置からGKがスローすることはできますか？

A5. ボールがゴールの中であったとしても、身体の一部がゴールエリアに入っていれば、スローは可能です。

Q6. 得点の後、GKスローの際、GKから3m離れる必要はありますか？

A6. GKスローに関する競技規則を適用します。ポイントが存在しないため防御側プレーヤーは正しい位置であればGKから3m離れる必要はありません。

※GKはゴールキーパーの略です。

スコアールーム①

第24回JOCジュニアオリンピックカップ2015ハンドボール大会

開催期日：2015年12月23日(水)～27日(日)
会　　場：沖縄県・浦添市民体育館・沖縄県立武道館

【男　子】

▼予選A組
石　川　28（13－7、15－14）21　京　都
石　川　23（8－9、15－9）18　宮　城
京　都　27（18－7、9－12）19　宮　城

▼予選B組
北海道　26（10－10、16－10）20　茨　城
北海道　22（14－7、8－11）18　沖　縄
茨　城　20（13－9、7－11）20　沖　縄

▼予選C組
三　重　24（11－7、13－8）15　福　岡
三　重　33（17－9、16－14）23　兵　庫
兵　庫　23（11－11、12－8）19　福　岡

▼予選D組
埼　玉　23（15－10、8－10）20　福　島
埼　玉　19（14－9、5－9）18　山　口
山　口　26（11－7、15－11）18　福　島

▼予選E組
富　山　26（11－10、15－12）22　香　川
富　山　30（15－11、15－19）30　群　馬
香　川　32（15－10、17－12）22　群　馬

▼予選F組
愛　知　20（10－7、10－8）15　大　阪
愛　知　22（12－10、10－9）19　大　分
大　分　27（14－16、13－10）26　大　阪

▼予選G組
東　京　32（13－8、19－15）23　熊　本
岐　阜　18（6－9、12－5）14　東　京
熊　本　36（16－6、20－16）22　岐　阜

▼予選H組
岩　手　25（7－6、18－10）16　広　島
岩　手　21（11－6、10－14）20　浦添市
浦添市　30（14－9、16－11）20　広　島

▼準々決勝
石　川　24（14－12、10－11）23　北海道
埼　玉　26（11－5、15－12）17　三　重
愛　知　23（9－10、14－11）21　富　山
岩　手　28（13－9、15－13）22　熊　本

▼準決勝
石　川　30（14－11、16－17）28　埼　玉
愛　知　21（11－9、10－10）19　岩　手

▼決　勝
愛　知　26（14－10、12－5）15　石　川

【女　子】

▼予選A組
福　井　27（10－5、17－13）18　秋　田
福　井　19（8－6、11－6）12　茨　城
茨　城　32（13－10、19－7）17　秋　田

▼予選B組
兵　庫　26（9－10、17－10）20　愛　媛
兵　庫　29（16－3、13－11）14　沖　縄
愛　媛　29（16－8、13－14）22　沖　縄

▼予選C組
東　京　34（15－5、19－10）15　北海道
東　京　20（11－3、9－8）11　大　阪
大　阪　20（10－5、10－9）14　北海道

▼予選D組
大　分　19（6－5、13－8）13　三　重
大　分　28（16－7、12－13）20　岡　山
岡　山　25（11－8、14－9）17　三　重

▼予選E組
愛　知　22（13－1、9－8）9　神奈川
愛　知　24（14－7、10－7）14　福　岡
福　岡　17（9－7、8－8）15　神奈川

▼予選F組
京　都　25（9－9、16－5）14　香　川
京　都　33（18－13、15－12）25　浦添市
浦添市　21（11－7、10－11）18　香　川

▼予選G組
千　葉　18（7－8、11－7）15　熊　本
千　葉　19（10－4、9－7）11　岩　手
岩　手　13（7－4、6－7）11　熊　本

▼予選H組
山　口　26（13－8、13－7）15　富　山
山　口　25（18－7、7－10）17　埼　玉
富　山　24（15－8、9－14）22　埼　玉

▼準々決勝
福　井　25（13－8、12－14）22　兵　庫
東　京　26（13－7、13－10）17　大　分
京　都　24（10－5、14－8）13　愛　知
山　口　18（8－8、10－8）16　千　葉

▼準決勝
東　京　21（11－5、10－9）14　福　井
山　口　25（11－7、14－11）18　京　都

▼決　勝
東　京　22（10－13、12－8）21　山　口

スコアールーム②

全日本社会人ハンドボールチャレンジ2016

開催期日：2016年2月5日(金)～7日(日)
会　　場：福井県・北陸電力福井体育館フレア

【男　子】

▼1回戦
高知クラブ　28（9－9、19－13）22　同朋クラブ
MHC　19（8－9、11－9）18　マツダ
警視庁クラブ　15（6－4、9－4）8　日本ゼオン
大阪ガス　22（9－12、13－8）20　豊田自動織機

▼2回戦
甲府クラブ　37（18－8、19－10）18　金沢市役所
八光自動車工業　18（12－8、6－9）17　プラザー工業
東ソー　20（11－8、9－11）19　新日鐵住金名古屋
HC岩手　40（20－8、20－4）12　TOYAMA選抜
HC岐阜　37（19－4、18－10）14　MHC
大同クラブ　25（15－7、10－8）15　警視庁クラブ
トヨタ自動車　30（12－6、18－4）10　高知クラブ
EHC　29（15－3、14－5）8　大阪ガス

▼敗者戦
プラザー工業　22（11－10、11－8）18　新日鐵住金名古屋
TOYAMA選抜　33（12－11、21－13）24　同朋クラブ
豊田自動織機　24（10－4、14－15）19　マツダ
金沢市役所　33（17－10、16－6）16　MHC
高知クラブ　30（15－7、15－8）15　日本ゼオン
大阪ガス　17（7－11、10－5）16　警視庁クラブ

▼準々決勝
HC岐阜　25（10－12、15－8）20　甲府クラブ
大同クラブ　26（13－7、13－9）16　八光自動車工業
トヨタ自動車　23（14－10、9－8）18　東ソー
HC岩手　29（11－11、18－10）21　EHC

▼5－8位決定戦
甲府クラブ　23（7－10、16－12）22　八光自動車工業
EHC　24（12－6、12－8）14　東ソー

▼準決勝
HC岐阜　17（6－8、11－8）16　大同クラブ
HC岩手　27（16－7、11－12）19　トヨタ自動車

▼3位決定戦
トヨタ自動車　25（13－9、12－11）20　大同クラブ

▼決　勝
HC岩手　23（11－10、12－7）17　HC岐阜

【女　子】

▼リーグ1回戦
岩手選抜　24（13－10、11－8）18　奈良県ナデシコクラブ
HC福井　25（10－8、15－8）16　愛媛選抜

▼リーグ2回戦
岩手選抜　26（15－6、11－10）16　愛媛選抜
HC福井　21（9－7、12－10）17　奈良県ナデシコクラブ

▼リーグ3回戦
岩手選抜　18（9－7、9－6）13　HC福井
愛媛選抜　28（14－10、14－11）21　奈良県ナデシコクラブ

がんばれハンドボール20万人会「サポート会員」1・2月入会・継続会員

【岩手】多田和生【埼玉】寺尾嗣子【千葉】窪田　優【東京】伊東　卓、田村正一、田村裕子、荘林康次、杉山　茂、堀江成典【神奈川】相原康宏、岡本　大、井上理央、井上由羽【長野】後藤政俊【新潟】遠藤正伸【富山】松浦良一、松浦雅恵【石川】寺垣俊彦【静岡】池ヶ谷優芽【愛知】安永光宏、宮地光男、不破嘉彦、宮崎奈央【京都】廣瀬佳代【熊本】若杉和男、川上靖浩【宮崎】江夏正弘

【4月の行事予定】

【会議】……………………………………………………………………

4月9日(土)　常務理事会

【大会】……………………………………………………………………

4月17日(日)～19日(火)

第13回東アジアクラブ選手権（男女）（韓国・ソウル）

HAND BALL CONTENTS Mar. Apr











代表取締役　青木 理恵

販売から賃貸管理までトータルサポート

私たち株式会社ユリカコーポレーションは、お客様方へ不動産を用いたライフプランをご提案しております。
自社ブランド『YURIKA ROSE』（ユリカ ロゼ）シリーズは、今回で第四弾を分譲！
今後も、ハンドボール選手と同じように、全力を尽くし邁進してまいりますので、どうぞよろしくお願い致します。

私達、株式会社ユリカコーポレーションは女子ハンドボールを応援しています!!

http://yurika-co.jp/

株式会社ユリカコーポレーション

〒101-0041 東京都千代田区神田須田町2-6-2 神田セントラルプラザ1202
TEL：03-3525-8986 / FAX：03-5295-8188



（公財）日本ハンドボール協会編　『ハンドボール』　第五五八号
平成二十八年三月二十六日印刷
平成二十八年四月一日発行
東京都渋谷区神南一ー一ー一
電話　代表〇三ー三四八一ー二三六八
振替　〇〇一二〇ー七ー一〇二九三
編集兼発行人　川上憲太
定価　年間三三〇〇円